333
7
禁複写
Ⓜ

始

335-7

東京風景

發行所

小川一眞出版部

東京新橋日吉町

SCENES IN THE EASTERN CAPITAL OF JAPAN.

PUBLISHER.

K. OGAWA, F. R. P. S.,

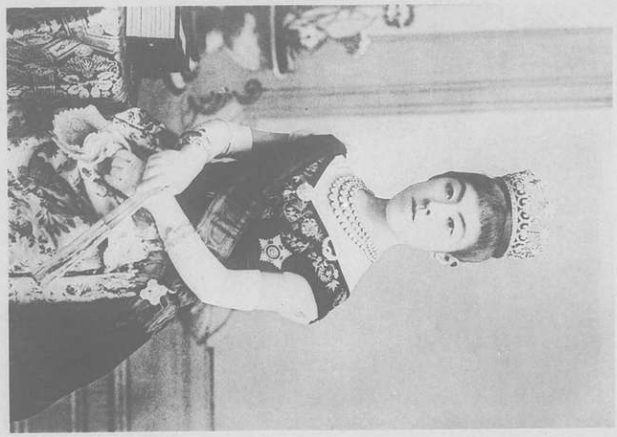
Hiyoshicho, Tokyo, Japan.

明治
44. 4. 27
内交

自序

百聞は一見に如ずとは實に古今の格言也、今や海陸の交通自由自在、朝に墨田の花を愛して夕に嵐山の景を賞し、昨日は筑紫に菅廟を拜し、今日は奥州の松島に遊ぶの快あり、所謂百聞を排して一見を恋にするもの、只滊笛一聲の間に存す、然れ共這は餘資あり餘暇ある人の克くすべきものにして之に反する人の成し能はざる處也、左れば上下一般坐ながらにして實見に價するものを擇ばんか、蓋し寫眞案内の右に出るもの非ざるべし、其寫撮する處の風物、固より尺寸の反影なりと雖も山河の形勝草木の景致純然たる一個の小天地なり、此編亦數十頁に過ぎざるに、東都著名の勝區舊蹟は概ね收めて此中に在り、一度之を繙かば其實境を察し其由來を諦め、一見百聞に勝るもの數等なるべきを信ず

編者誌す



PREFACE.

It is an old proverb that it is better to see once than to hear a hundred times. In these days when we enjoy every facility of communication by land and sea, we may admire in the morning the flowers on the River Sumida and gloat in the evening over the views of Arashiyama, or visit one day the Shrine of Sugawara Michizane in Chikushi and enjoy the next day the delights of Matsushima in Oshu. In short, one flow of the steam whistle enables us to see at pleasure what we had formerly known by hearsay only. Such good fortune, however, comes only to those who have plenty of means and leisure, and not to those who lack them. Those persons, whatever may be their position, who wish to obtain some thing almost equivalent to actual sight, cannot do better than get a photographic guide; for the views it presents, though they are on a far smaller scale, still retain the beauty and charm of the natural objects which it has copied. The present album, notwithstanding the comparative small number of photographs it contains, gives pictures of most places in Tokyo that are noted for their charming scenery or historic interest and enables the beholder to obtain a fair idea of the actual views of those places, an idea which will, it is believed, fully confirm the truth of the proverb that one sight is better than a hundred hearsays.

東京風景目次

飛行器より見たる市街……一
東京市廳……二
二重橋……三
東宮御所……四
桔梗門……五
和田倉門……六
三宅坂より司法省を望む……七
司法省……八
楠公銅像……九
櫻田門より參謀本部を望む……一〇
外務省……一一
日比谷公園より各官衙を望む……一二
馬場先門外……一三
警視廳……一四
丸の内全景……一五
八重洲町通……一六
農商務省……一七
農商務省商品陳列場……一八
日本銀行……一九
日本銀行内部……二〇
逓信省……二一
中央郵便局、電話交換局内部……二二
高架鐵道線……二三
陸軍觀兵式……二四
帝國劇場……二五
歌舞伎座……二六
向嶋之櫻花……二七
觀世流能樂……二八
勸業銀行、日比谷圖書館……二九
海軍參考館……三〇
四ッ目の牡丹……三一
菊花壇……三二
芝公園杉並木……三三
芝公園御靈廟……三四

花月樓の座敷、枕橋八百松樓……三五
紅葉館の踊……三六
華族會館……三七
帝國ホテル……三八
議事堂……三九
日比谷公園消防出初式……四〇
芝公園增上寺山門……四一
金刀比羅神社祭典……四二
五月幟……四三
龜井戸藤……四四
不忍池畔、上野廣小路……四五
蓮池、入谷朝顏……四六
新橋停車場……四七
銀座街道……四八
日本橋街道……四九
廣瀨中佐銅像……五〇
日本橋……五一
白木屋呉服店陳列場……五二
三越呉服店陳列場……五三
魚河岸、青物市場……五四
澁澤邸庭園……五五
瀧の川、飛鳥山……五六
お茶の水……五七
ニコライ教堂……五八
東京株式取式所……五九
水天宮……六〇
東京帝國大學……六一
前田邸……六二
辨慶橋……六三
四谷見附より市ヶ谷方面を望む……六四
靖國神社……六五
有栖川宮銅像、北白川宮銅像……六六
西本願寺內部……六七
護國寺……六八
汐干狩……六九
舟遊び……七〇
永代橋、兩國橋……七一
兩國の烟火……七二
淺草東本願寺……七三
淺草觀音堂……七四
幼稚園……七五
向嶋より待乳山を望む……七六
雷門仲見世……七七
淺草公園內觀物、仝上夜景……七八
不忍池畔雪景……七九
百花園、臥龍梅……八〇
上野東照宮……八一
上野公園之櫻花……八二
西郷銅像、彰義隊の墓……八三
博物館……八四
美術學校、音樂學校……八五
動物園……八六
表慶館……八七
上野帝國圖書館……八八
深川八幡宮祭禮……八九
西の市……九〇
堀切之菖蒲……九一
國技館之角力……九二
高輪岩崎邸……九三
深川岩崎邸……九四
泉岳寺內四十七士の墓……九五
淺野邸……九六
農科大學、植物園……九七
日本赤十字社病院……九八
雜司ヶ谷鬼子母神境內並木……九九
大久保のつゝじ……一〇〇
目黑不動……一〇一
池上本門寺……一〇二
早稻田大學、慶應義塾の野球競技……一〇三
品川より芝浦を望む、ロセッタホテル……一〇四
列車、食堂車內部……一〇五
精養軒西店……一〇六
新橋藝者おどり……一〇七
新劇……一〇八

Bird's eye View of City from an Aeroplane.

飛行器より見たる市街

は現今世界の流行物として内外人研究を重ねつゝある飛行器より東京市街を鳥瞰するの光景なり、如何に鮮やかに如何に雄大に何に優秀に眼底に映じ來るかは本だ天上を試みざる筆者の謂ふ能はざる處なり

是は麹町區有樂町に在る東京市廳の正面觀也、明治廿二年東京市を置き、特別市制の下に在りしが、三十一年同制の廢止と共に市役所の開始となれり、廳内に十課を置き別に市區改正局、市會議事堂等あり

東京市廳

Tokyo City Hall.

橋　重　二

Niju-Bashi.

是は明治卅一年より十ヶ年の御豫定にて元赤坂離宮に起工せられたる東宮御所の外觀なり、洋風三層の御建築にして佛國路易十四世式を用ひ、各國の宮殿を參酌せしもの、並に庭園の一部は日本風なも加味せられ、御正門は舊學習院敷地と相對せる舊乾門邊に開かれ、外郭は煉瓦を基礎とし上部を御影石にて飾り、門柱及戸扉は鉄材を用ゐ、内部は鑑石、煉瓦陶器鉄、檜等より成る、意匠崇高壮大の御營造なりと承る

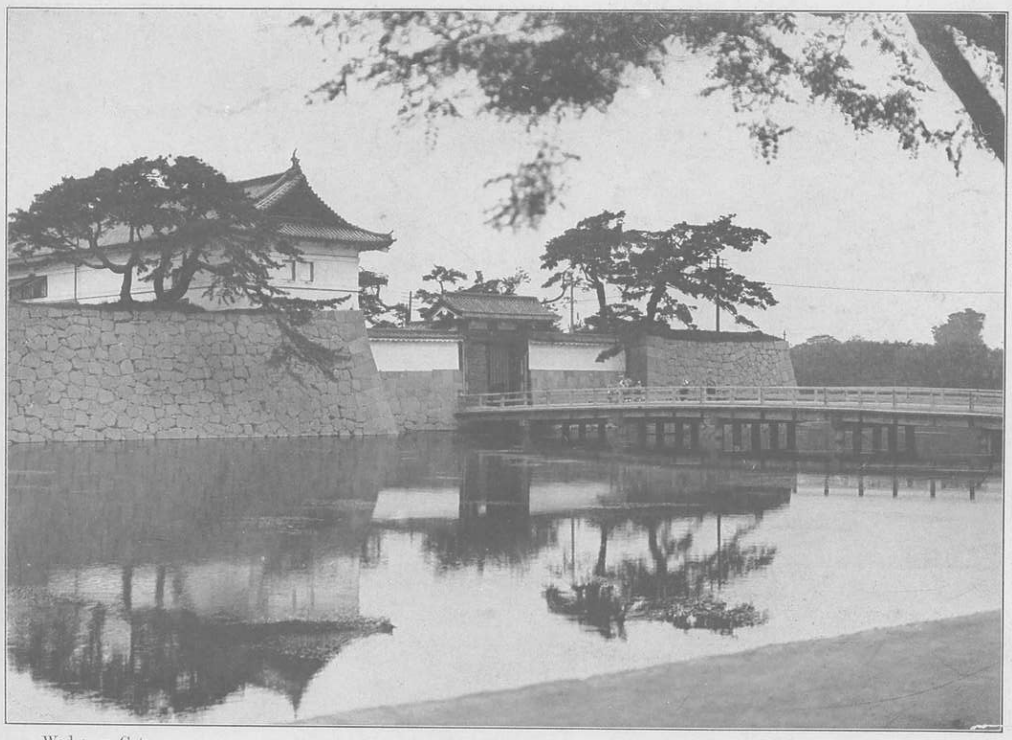
Palace of the Crown Prince.

東宮御所

是は舊城東北の櫓門にして往江戸城、内廓門の一つなり、一説には太田道灌の臣和田倉中左衛門の住せし所なりと云へど、慶長三年の古圖には「蔵」の御門と唱ふる土衆の通行橋なりと註し又同十四年頃の圖には蓋に和田倉と稱する大なる御殿二棟を畫き、此の御殿は「蔵」の御後に御殿を成りしが文政年間松平肥後守の添屋敷に賜りたり云々とあり、昔は暮れたゞ今の午後六時の太鼓を合圖に此等諸内の諸門を鎖し、諸人の通行を許さゞりしも、今や南北に通ずる城内の大路となりたるを以て、徒歩東行終時として日夜繼ぐが如し、門扉の堅、柱石の大、そゞろに往時の仰ぎ偲ばしむ

Kikyo Gate (near the Imperial Castle).

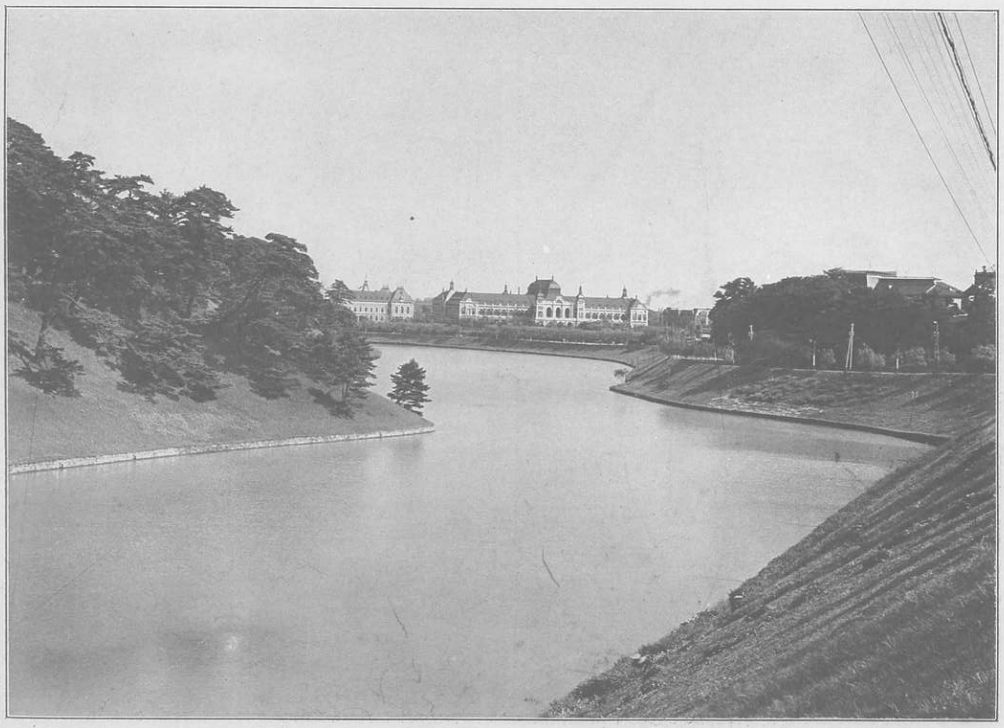
桔梗門



是は皇城東北の櫻門にして舊江戸城、内廓門の一つなり、一説に太田道灌の臣和田倉半左衛門の住せし所なりと云へど、慶長三年の古圖には「城の御門」と唱ふる士衆の通行橋となりと註し又同十四年頃の圖には茲に和田倉と稱する大なる御濠三棟を高き、此の御濠は後に御堀と成りしが文政年間松平肥後守の孫侯敷に賜りたりと云ふとあり、昔は落れ六ツ（今の午後六時）の太鼓を合圖に此等堀内の諸門を鎖し、諸人の通行を許さりしも、今や南北に通ずる城内の大路となりたるを以て、徒歩車行絡繹として日夜織るが如し、門扉の堅、柱石の大、そゞろに幕時の面影を偲ばしむ

Wadagura Gate.

和田倉門



是は皇城の南櫻田門外濠端の櫻田門より半蔵門に至る間の城濠の一角より望み得る圖の官衙なる壮麗なる光景なり、徳川家康入國後、濠堀築造の工を起し、加藤清正淺野長政を擧げて其事行さて、仍て清正は其臣森本義太夫に命じ、長政は其臣鳴田大隅に命じて此の工を成さしむ、兩士共に忠實正直、其強きこと辨慶の如くなりしなり、其て此名ありといふ

View of the Judicial Department from Miyakezaka.

三宅坂ヨリ司法省ヲ望ム

是に麹町區四日比谷町に在る司法省の廳舍也司法大臣を長官として諸般の司法行政事務を管理する處、省内には大臣官房、民刑局、監獄局を置き兼て監獄を管理す、明治の初年には刑部省獄正藪を置き司法警察の事務を處理せしめたりしが、四年七月之を廢し更に本省を置かれたり建築壯大巍然として霞が關の一面に異彩を放つ

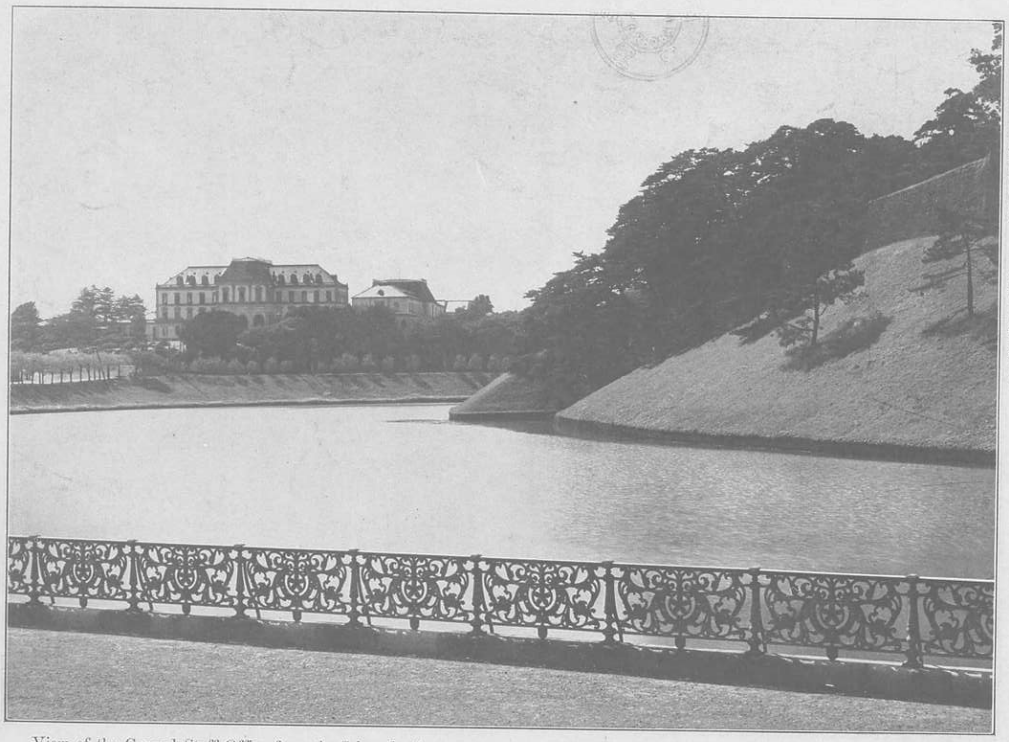
Judicial Department.

司法省

Statue of Kusunoki Masahige.

楠公銅像

ゝ花ゝ勝り、時は五月の末、日は五月雨に濡れて、雨は降るとも降らぬとも、霧とも雲とも、物の見分けも、つかぬ中に、一人の武士、馬に乗りて、ひたすらに、馬を、ひ、ぬ、ま、ま、に、、、



櫻田門ヨリ參謀本部ヲ望ム

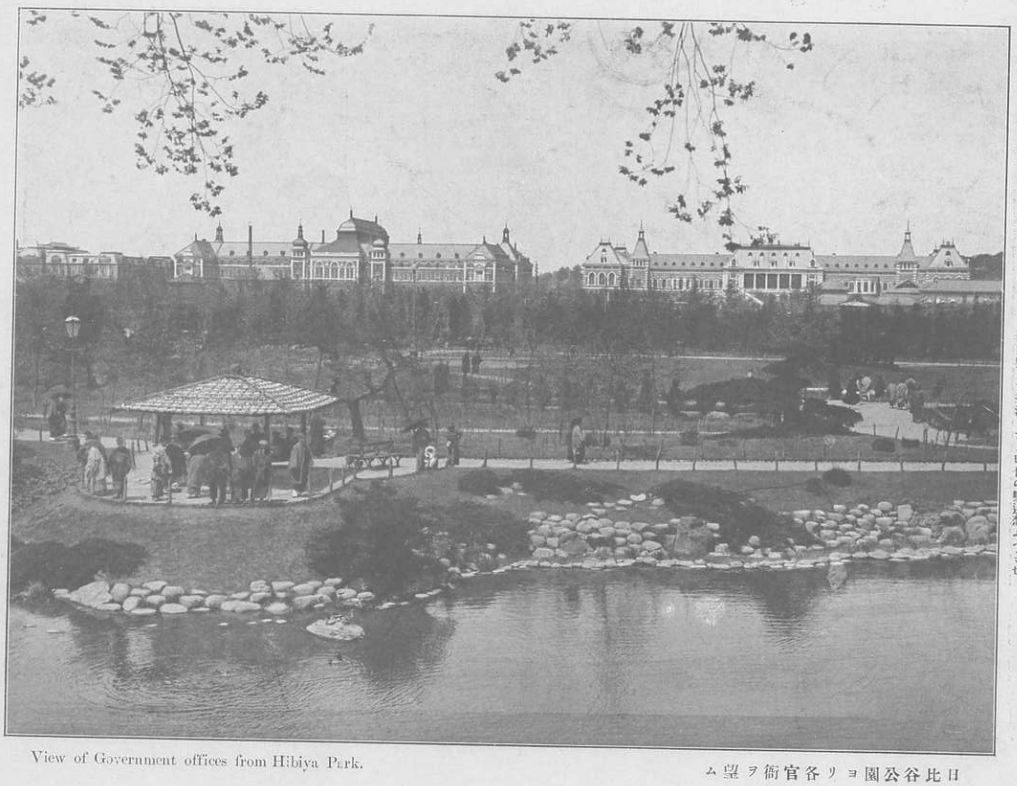
View of the General Staff Office from the Sakurada Gate.

是は天皇に直隷して軍務に參謀し、國防用兵の事を掌る參謀本部の廳舍也、又右方に一水を夾み、翠色滴るが如き老松の、鬱然たる處は、皇城南部の一角とす、參謀本部の位置は幕末の大老、開國主義の先鋒、舊彦根藩主井伊掃部守直弼の邸址にして、彼の櫻田門外に於ける水戸浪士の暗殺事件と共に、今尚世人の記憶する處なり、表門内に故有栖川熾仁親王御乘馬の銅像あり、親王は往年の御身に花ましながら、維新の始めより屢々節刀を授けて國難を鎮定し、功に依り陸軍大將兼參議を爲り、又左大臣を爲り、近衛都督を爲り且つ參謀本部創立の長官として令名ありし御方なりき

外務省

Foreign Office.

是は霞ヶ關に在る外務省の光景なり、舊幕時代は筑前黑田家の邸宅なりしが、明治十四年茲に同省の廳舍を設けられたり、表門内の正面に明治の英傑として當代の外交家として名聲噴々たりし、故外務大臣陸奥宗光伯の銅像あり威容儼然として、あたりを拂ひ、眼光燦々として人を射るの觀あり、四邊の櫻柳枝頭を交へ、春時の風色秀麗を極む



View of Government offices from Hibiya Park.

日比谷公園ヨリ各官衙ヲ望ム

是は明治三十六年に開かれたる新公園なり、其面積五万餘坪、東京市の中央に位し、隣接す、和洋折衷の構造にして花卉水石の按排、衛に来せす跳に流れて、所謂文明的パーク也、武江年表に曰く、今のヤヨス河岸の南の邊なるひや町といふ事、昔は汐入りの地にして漁人海中に枝付の竹を建べ立て魚の入るを待て取る、これを「ヒビ」といふ、正字なし、今も昔を取るに此の「ヒビ」を用ふ、ひやかせをなすもの、往地なればひや町と呼べり云々とあり、徳川時代には諸大名の邸宅町なれ、維新後は陸軍の練兵場となり、更に一變して市民の共樂地となれり、桑田變して沼海となる時世の變遷想ふべき也

Street-scene outside Babasaki-mon.

馬場先門外

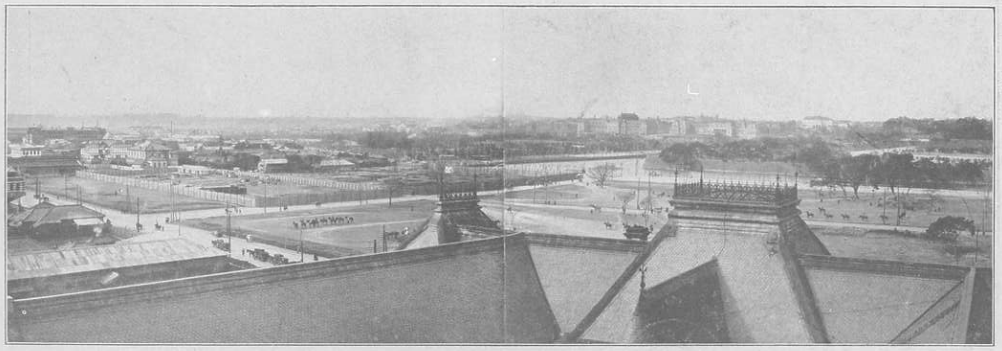
是は丸の内馬場先門外の光景也、東方一帯は近時建設せられたる洋風の大家屋にして西方は道端に並木を植ゑし、城濠を隔てゝ二重橋前の大廣原に接す、尚右方に白布の如く一直線を成すものは凱旋道路也、四邊の展望優秀を極め、皇城の壮厳と相俟て貴とし

是は丸の内馬場先門外に新築せられたる警視廳也、隣境帝國劇場と相駢んで輪奐の美を誇りつゝあり、維新の當時は舊幕府町奉行を以て江戸の取締となし、翌で薩長其他の藩兵を以て市中を警邏せしめ、又府兵を設きたる事ありしが、五年警保寮を設けて巡査を置き、六年東京警視廳と爲り、十四年警視廳と改め、三十九年官制を定め以て今日に至れり

Metropolitan Police Office.

警視廳

是は東京市役所の屋上より觀望せし丸の内市街の全景也、高樓大廈櫛然として雲を駢べ、彩雲の呼縈たる處、老月の碧空なる間に、高潤壯麗なる宮城の羽其を仰望す、其風光の傑秀にして眺望の廣濶なる實に帝國の都府、東京の美觀を一時の中に收むるの思ひあり、武藏野は月の入るべきくまもなく草より出で、草にこそ入れと詠じたる歌は遠き昔の夢、明治聖代の帝都は日進月歩、草より出で、草に入りたる月影も、今は軒より出でゝ軒に入るの繁昌を呈するに至りたり



General View of Marunouchi (Within the Outer Moats of the Old Yedo Castle).

丸ノ内全景

是は丸の内八重洲町より二重橋前の廣原な陸で、烟霞一抹の間に宮城の高殿潔閑な仰ぎ見る所の光景也、八重洲町は元と大名小路と稱し國持諸侯の邸宅及幕府諸代の藩邸相列なり、いと鬱めしき處なりしも明治維新後は一時諸官衙の位置と成り廿年頃より漸次他に轉じ今は中央鐵道停車場及會社商館等の大厦軒を駢べ、觀望甚だ壯大なり

Yaesucho.

八重洲町通

是は本橋町十丁目に在る農商務省の廳舍也於茲農商の事務は内務大藏兩省に屬したりしが、明治十四年之を分割して本省を置かれたり、門ち農商工、水産、林野、鑛山及地質に關する事務を管理する所なり

Department of Agriculture and Commerce.

農商務省

是に農商務省の内に在る商品陳列館の一隅なり、即ち内外の商品見本及参考品を蒐集し衆庶の参観に供し又内外貿易に關する通信事務を掌る所なり

農商務省商品陳列場
Exhibition-gallery in the Department of Agriculture and Commerce.

行銀本日

是は日本銀行應接室の裝置なり、諸器具の按排(あんぱい)宜(よろ)しく然(しか)して見る。ちに快(こころよ)し

日本銀行内部

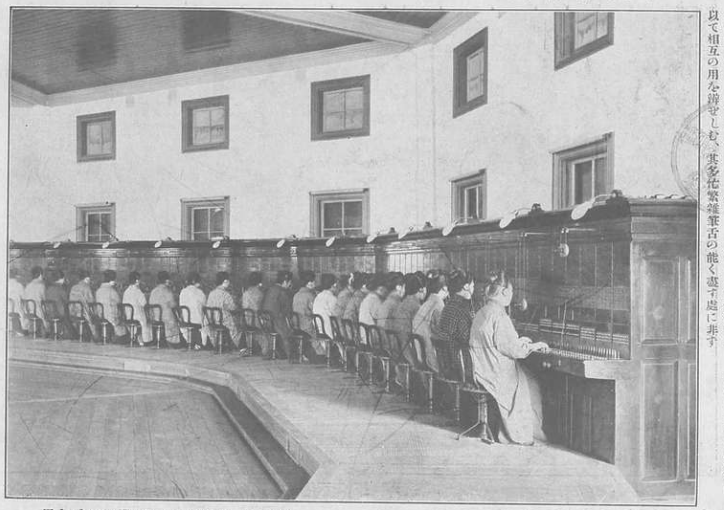
Nihon Ginko (Bank of Japan), Interior.

是に於て、第一期の事業に結ぶ、明治三十年、東京市内の事業を終り、次で、第二期の事業に結ぶ、明治三十八年、東京市内の事業を終り、次で、第三期の事業に結ぶ、明治四十年、東京市内の事業を終り、次で、第四期の事業に結ぶ、明治四十三年、東京市内の事業を終り、次で、第五期の事業に結ぶ、明治四十六年、東京市内の事業を終り、次で、第六期の事業に結ぶ、明治四十九年、東京市内の事業を終り、次で、第七期の事業に結ぶ、大正二年、東京市内の事業を終り、次で、第八期の事業に結ぶ、大正五年、東京市内の事業を終り、次で、第九期の事業に結ぶ、大正八年、東京市内の事業を終り、次で、第十期の事業に結ぶ、大正十一年、東京市内の事業を終り、次で、第十一期の事業に結ぶ、大正十四年、東京市内の事業を終り、次で、第十二期の事業に結ぶ、昭和二年、東京市内の事業を終り、次で、第十三期の事業に結ぶ、昭和五年、東京市内の事業を終り、次で、第十四期の事業に結ぶ、昭和八年、東京市内の事業を終り、次で、第十五期の事業に結ぶ、昭和十一年、東京市内の事業を終り、次で、第十六期の事業に結ぶ、昭和十四年、東京市内の事業を終り、次で、第十七期の事業に結ぶ、昭和十七年、東京市内の事業を終り、次で、第十八期の事業に結ぶ、昭和二十年、東京市内の事業を終り、次で、第十九期の事業に結ぶ、昭和二十三年、東京市内の事業を終り、次で、第二十期の事業に結ぶ、昭和二十六年、東京市内の事業を終り、次で、第二十一期の事業に結ぶ、昭和二十九年、東京市内の事業を終り、次で、第二十二期の事業に結ぶ、昭和三十二年、東京市内の事業を終り、次で、第二十三期の事業に結ぶ、昭和三十五年、東京市内の事業を終り、次で、第二十四期の事業に結ぶ、昭和三十八年、東京市内の事業を終り、次で、第二十五期の事業に結ぶ、昭和四十一年、東京市内の事業を終り、次で、第二十六期の事業に結ぶ、昭和四十四年、東京市内の事業を終り、次で、第二十七期の事業に結ぶ、昭和四十七年、東京市内の事業を終り、次で、第二十八期の事業に結ぶ、昭和五十年、東京市内の事業を終り、次で、第二十九期の事業に結ぶ、昭和五十三年、東京市内の事業を終り、次で、第三十期の事業に結ぶ、昭和五十六年、東京市内の事業を終り、次で、第三十一期の事業に結ぶ、昭和五十九年、東京市内の事業を終り、次で、第三十二期の事業に結ぶ、昭和六十二年、東京市内の事業を終り、次で、第三十三期の事業に結ぶ、昭和六十五年、東京市内の事業を終り、次で、第三十四期の事業に結ぶ、昭和六十八年、東京市内の事業を終り、次で、第三十五期の事業に結ぶ、昭和七十一年、東京市内の事業を終り、次で、第三十六期の事業に結ぶ、昭和七十四年、東京市内の事業を終り、次で、第三十七期の事業に結ぶ、昭和七十七年、東京市内の事業を終り、次で、第三十八期の事業に結ぶ、昭和八十年、東京市内の事業を終り、次で、第三十九期の事業に結ぶ、昭和八十三年、東京市内の事業を終り、次で、第四十期の事業に結ぶ、昭和八十六年、東京市内の事業を終り、次で、第四十一期の事業に結ぶ、昭和八十九年、東京市内の事業を終り、次で、第四十二期の事業に結ぶ、昭和九十二年、東京市内の事業を終り、次で、第四十三期の事業に結ぶ、昭和九十五年、東京市内の事業を終り、次で、第四十四期の事業に結ぶ、昭和九十八年、東京市内の事業を終り、次で、第四十五期の事業に結ぶ、昭和百一年、東京市内の事業を終り、次で、第四十六期の事業に結ぶ、昭和百四年、東京市内の事業を終り、次で、第四十七期の事業に結ぶ、昭和百七年、東京市内の事業を終り、次で、第四十八期の事業に結ぶ、昭和百十年、東京市内の事業を終り、次で、第四十九期の事業に結ぶ、昭和百十三年、東京市内の事業を終り、次で、第五十期の事業に結ぶ、昭和百十六年、東京市内の事業を終り、次で、第五十一期の事業に結ぶ、昭和百十九年、東京市内の事業を終り、次で、第五十二期の事業に結ぶ、昭和百二十二年、東京市内の事業を終り、次で、第五十三期の事業に結ぶ、昭和百二十五年、東京市内の事業を終り、次で、第五十四期の事業に結ぶ、昭和百二十八年、東京市内の事業を終り、次で、第五十五期の事業に結ぶ、昭和百三十一年、東京市内の事業を終り、次で、第五十六期の事業に結ぶ、昭和百三十四年、東京市内の事業を終り、次で、第五十七期の事業に結ぶ、昭和百三十七年、東京市内の事業を終り、次で、第五十八期の事業に結ぶ、昭和百四十年、東京市内の事業を終り、次で、第五十九期の事業に結ぶ、昭和百四十三年、東京市内の事業を終り、次で、第六十期の事業に結ぶ、昭和百四十六年、東京市内の事業を終り、次で、第六十一期の事業に結ぶ、昭和百四十九年、東京市内の事業を終り、次で、第六十二期の事業に結ぶ、昭和百五十二年、東京市内の事業を終り、次で、第六十三期の事業に結ぶ、昭和百五十五年、東京市内の事業を終り、次で、第六十四期の事業に結ぶ、昭和百五十八年、東京市内の事業を終り、次で、第六十五期の事業に結ぶ、昭和百六十一年、東京市内の事業を終り、次で、第六十六期の事業に結ぶ、昭和百六十四年、東京市内の事業を終り、次で、第六十七期の事業に結ぶ、昭和百六十七年、東京市内の事業を終り、次で、第六十八期の事業に結ぶ、昭和百七十年、東京市内の事業を終り、次で、第六十九期の事業に結ぶ、昭和百七十三年、東京市内の事業を終り、次で、第七十期の事業に結ぶ、昭和百七十六年、東京市内の事業を終り、次で、第七十一期の事業に結ぶ、昭和百七十九年、東京市内の事業を終り、次で、第七十二期の事業に結ぶ、昭和百八十二年、東京市内の事業を終り、次で、第七十三期の事業に結ぶ、昭和百八十五年、東京市内の事業を終り、次で、第七十四期の事業に結ぶ、昭和百八十八年、東京市内の事業を終り、次で、第七十五期の事業に結ぶ、昭和百九十一年、東京市内の事業を終り、次で、第七十六期の事業に結ぶ、昭和百九十四年、東京市内の事業を終り、次で、第七十七期の事業に結ぶ、昭和百九十七年、東京市内の事業を終り、次で、第七十八期の事業に結ぶ、昭和二百年、東京市内の事業を終り、次で、第七十九期の事業に結ぶ、昭和二百三年、東京市内の事業を終り、次で、第八十期の事業に結ぶ、昭和二百六年、東京市内の事業を終り、次で、第八十一期の事業に結ぶ、昭和二百九年、東京市内の事業を終り、次で、第八十二期の事業に結ぶ、昭和二百十二年、東京市内の事業を終り、次で、第八十三期の事業に結ぶ、昭和二百十五年、東京市内の事業を終り、次で、第八十四期の事業に結ぶ、昭和二百十八年、東京市内の事業を終り、次で、第八十五期の事業に結ぶ、昭和二百二十一年、東京市内の事業を終り、次で、第八十六期の事業に結ぶ、昭和二百二十四年、東京市内の事業を終り、次で、第八十七期の事業に結ぶ、昭和二百二十七年、東京市内の事業を終り、次で、第八十八期の事業に結ぶ、昭和二百三十年、東京市内の事業を終り、次で、第八十九期の事業に結ぶ、昭和二百三十三年、東京市内の事業を終り、次で、第九十期の事業に結ぶ、昭和二百三十六年、東京市内の事業を終り、次で、第九十一期の事業に結ぶ、昭和二百三十九年、東京市内の事業を終り、次で、第九十二期の事業に結ぶ、昭和二百四十二年、東京市内の事業を終り、次で、第九十三期の事業に結ぶ、昭和二百四十五年、東京市内の事業を終り、次で、第九十四期の事業に結ぶ、昭和二百四十八年、東京市内の事業を終り、次で、第九十五期の事業に結ぶ、昭和二百五十一年、東京市内の事業を終り、次で、第九十六期の事業に結ぶ、昭和二百五十四年、東京市内の事業を終り、次で、第九十七期の事業に結ぶ、昭和二百五十七年、東京市内の事業を終り、次で、第九十八期の事業に結ぶ、昭和二百六十年、東京市内の事業を終り、次で、第九十九期の事業に結ぶ、昭和二百六十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百期の事業に結ぶ、昭和二百六十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百一期の事業に結ぶ、昭和二百六十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百二期の事業に結ぶ、昭和二百七十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百三期の事業に結ぶ、昭和二百七十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百四期の事業に結ぶ、昭和二百七十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百五期の事業に結ぶ、昭和二百八十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百六期の事業に結ぶ、昭和二百八十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百七期の事業に結ぶ、昭和二百八十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百八期の事業に結ぶ、昭和二百九十年、東京市内の事業を終り、次で、第百九期の事業に結ぶ、昭和二百九十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百十期の事業に結ぶ、昭和二百九十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百十一期の事業に結ぶ、昭和二百九十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百十二期の事業に結ぶ、昭和三百年、東京市内の事業を終り、次で、第百十三期の事業に結ぶ、昭和三百三年、東京市内の事業を終り、次で、第百十四期の事業に結ぶ、昭和三百六年、東京市内の事業を終り、次で、第百十五期の事業に結ぶ、昭和三百九年、東京市内の事業を終り、次で、第百十六期の事業に結ぶ、昭和三百十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百十七期の事業に結ぶ、昭和三百十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百十八期の事業に結ぶ、昭和三百十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百十九期の事業に結ぶ、昭和三百二十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十期の事業に結ぶ、昭和三百二十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十一期の事業に結ぶ、昭和三百二十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十二期の事業に結ぶ、昭和三百三十年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十三期の事業に結ぶ、昭和三百三十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十四期の事業に結ぶ、昭和三百三十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十五期の事業に結ぶ、昭和三百三十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十六期の事業に結ぶ、昭和三百四十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十七期の事業に結ぶ、昭和三百四十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十八期の事業に結ぶ、昭和三百四十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百二十九期の事業に結ぶ、昭和三百五十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十期の事業に結ぶ、昭和三百五十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十一期の事業に結ぶ、昭和三百五十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十二期の事業に結ぶ、昭和三百六十年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十三期の事業に結ぶ、昭和三百六十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十四期の事業に結ぶ、昭和三百六十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十五期の事業に結ぶ、昭和三百六十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十六期の事業に結ぶ、昭和三百七十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十七期の事業に結ぶ、昭和三百七十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十八期の事業に結ぶ、昭和三百七十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百三十九期の事業に結ぶ、昭和三百八十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十期の事業に結ぶ、昭和三百八十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十一期の事業に結ぶ、昭和三百八十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十二期の事業に結ぶ、昭和三百九十年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十三期の事業に結ぶ、昭和三百九十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十四期の事業に結ぶ、昭和三百九十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十五期の事業に結ぶ、昭和三百九十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十六期の事業に結ぶ、昭和四百年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十七期の事業に結ぶ、昭和四百三年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十八期の事業に結ぶ、昭和四百六年、東京市内の事業を終り、次で、第百四十九期の事業に結ぶ、昭和四百九年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十期の事業に結ぶ、昭和四百十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十一期の事業に結ぶ、昭和四百十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十二期の事業に結ぶ、昭和四百十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十三期の事業に結ぶ、昭和四百二十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十四期の事業に結ぶ、昭和四百二十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十五期の事業に結ぶ、昭和四百二十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十六期の事業に結ぶ、昭和四百三十年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十七期の事業に結ぶ、昭和四百三十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十八期の事業に結ぶ、昭和四百三十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百五十九期の事業に結ぶ、昭和四百三十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十期の事業に結ぶ、昭和四百四十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十一期の事業に結ぶ、昭和四百四十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十二期の事業に結ぶ、昭和四百四十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十三期の事業に結ぶ、昭和四百五十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十四期の事業に結ぶ、昭和四百五十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十五期の事業に結ぶ、昭和四百五十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十六期の事業に結ぶ、昭和四百六十年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十七期の事業に結ぶ、昭和四百六十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十八期の事業に結ぶ、昭和四百六十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百六十九期の事業に結ぶ、昭和四百六十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十期の事業に結ぶ、昭和四百七十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十一期の事業に結ぶ、昭和四百七十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十二期の事業に結ぶ、昭和四百七十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十三期の事業に結ぶ、昭和四百八十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十四期の事業に結ぶ、昭和四百八十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十五期の事業に結ぶ、昭和四百八十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十六期の事業に結ぶ、昭和四百九十年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十七期の事業に結ぶ、昭和四百九十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十八期の事業に結ぶ、昭和四百九十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百七十九期の事業に結ぶ、昭和四百九十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十期の事業に結ぶ、昭和五百年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十一期の事業に結ぶ、昭和五百三年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十二期の事業に結ぶ、昭和五百六年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十三期の事業に結ぶ、昭和五百九年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十四期の事業に結ぶ、昭和五百十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十五期の事業に結ぶ、昭和五百十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十六期の事業に結ぶ、昭和五百十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十七期の事業に結ぶ、昭和五百二十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十八期の事業に結ぶ、昭和五百二十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百八十九期の事業に結ぶ、昭和五百二十七年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十期の事業に結ぶ、昭和五百三十年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十一期の事業に結ぶ、昭和五百三十三年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十二期の事業に結ぶ、昭和五百三十六年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十三期の事業に結ぶ、昭和五百三十九年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十四期の事業に結ぶ、昭和五百四十二年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十五期の事業に結ぶ、昭和五百四十五年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十六期の事業に結ぶ、昭和五百四十八年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十七期の事業に結ぶ、昭和五百五十一年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十八期の事業に結ぶ、昭和五百五十四年、東京市内の事業を終り、次で、第百九十九期の事業に結ぶ、昭和五百五十七

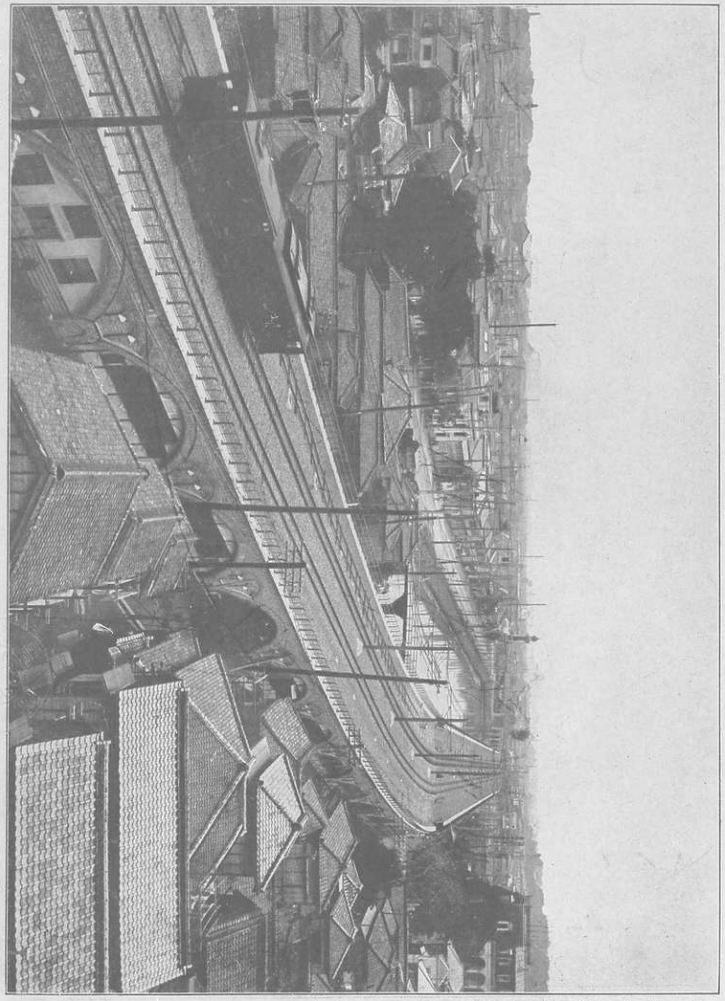
是は日本橋の右方江戸橋の南畔に在る東京郵便局の外觀也、幕末時代には魚納屋の在りし地なるを以て俗に生臭い鋪屋敷と云へり、明治四年三月東京四日市郵便局を置きたるを本局の濫觴とす、翌年駿遠を爲り、十九年逓信管理局と爲り、廿二年東京郵便電信局と爲り、廿六年東京逓信管理局と爲り、三十六年東京郵便局と改む即ち東京、埼玉、千葉、山梨の一府三縣の通信事務を管轄する一等郵便局なり

Central Post Office.　　中央郵便局

是は電話交換局内部の實況なり、八方より發來する要求を聽取し、之を一々瞬間に接續して以て相互の用を辨ぜしむ、其多忙繁雑筆舌の能く盡す處に非ず



Telephone Exchange Office (inside).　　電話交換局内部



Elevated Rail-way.　　高架鐵道

東京市内電車高架鐵道の工事は昨年中に着手し、中途、路面線を撤去して、高架線に移り、昨年末に於て、既に高架線の大部分を完成し、今年一月一日を期して、開通式を挙げたり

帝國劇場

Imperial Theatre (outside and inside).

是は本年三月を以て丸の内馬場先門外に開設せし帝國劇場の外觀と其内部の一端なり、構造總て洋式にして壮麗なる始め觀覽、食堂、休憩所、運動場等孰れも善盡し美盡し、些も間然する所なし、蓋し現在本邦劇場中の泰斗ならん乎

式兵觀軍陸

Military Review.

是は木挽町歌舞伎座の演劇中夜討曾我の一齣を撮影せしもの、正面に烏帽子垂衣を着して端座するは源頼朝、左方に乱髪を被りて胡座するは曾我五郎、其後に座する大童は御所五郎丸にして其他は皆源家の忠臣也、同座は市内第一の劇場なりしが本年丸の内に帝國劇場新築せられたる爲め、東西兩大劇の地位に立つ事さはなれり、以て其規模構造の如何に優大なるかを察すべきなり

長谷川復定撮影

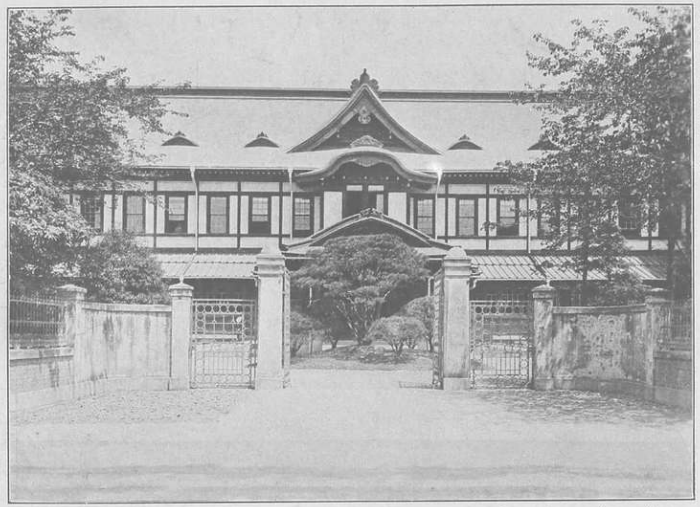
歌舞伎座

Kabukiza Theatre.

隅田川の堤は桜木の名所にして、春の頃は花の雲、見渡す限り一面の花盛りなり、殊に向島の桜は、花の下に茶屋を設け、酒肴を出だし、花を愛する人々の、花の下に集まりて、酒を酌み、詩を吟じ、歌を唱ひ、舞を舞ひ、実に一種の趣味を生ずるなり、墨堤の桜は、今を盛りと、咲き誇りて、春風に、ほのぼのと、匂ひ来る、花の香に、酔ひ、詩人の、詩情を、動かすに、足るべし、

花櫻之鳴向

Cherry-blossoms at Mukojima.



勸業銀行

Industrial Bank.

是は麹町區内幸町に在る日本勸業銀行也明治二十年八月の創立にして農工業の改良發達に必要と認めたる事業に對し低利長期の資金貸附を爲し、國利民福の發展を主眼とする一種の銀行なり其資本金二千万円也

日比谷圖書館

Hibiya Library.

是は日比谷公園の南方門の側らに建設せられたる日比谷圖書館也東京市の經營にして四十一年より開館せり、市の中央に位し出入に便なるを以て閲覧者常に多し

能楽流世觀

Noh dance.

能は謡曲に舞踊の要素を加へたるもの、其起源は明治以前に遡るべきも、今日の如き形式に成立したるは、明治の中葉以後にして、之を大成したるものは、世阿弥、観世流の祖なりとす、能楽は、謡曲を主とし、舞踊を從とするものにして、一種の歌劇なり、能楽の舞台は、正面三間、横三間の方形にして、屋根は、切妻造り、柱は、丸柱にして、朱塗なり、舞台の前方に、橋がかりあり、橋がかりの長さは、三間にして、幅は、一間なり、橋がかりの、舞台に接する所に、一本の柱あり、之を、目付柱と、稱す、

是は四十二年築地の一角に新設せられたる海軍參考館の外觀也、館内には日露役の戰利品を始め交戰中敵艦に鬪れたる軍艦の破片及鉄砲、弁(ベンケイ)慶の折損せしものを陳列せし處、軍籍に在る人は言ふに及ばず日曜毎に公開して公衆の縱覽に供すといふ

Naval Museum (outside and inside).

海軍參考館

Tree-peonies at Yotsume.

丹牡之目ッ四

此月三月八日、明治神宮の一片の風景、天上より見たる目黒の桜花、花の下に遊ぶ人々、

是は本所明治神宮の内の牡丹園、木に花を開く樹の牡丹、春の風に吹かれて花は揺ぎ、葉は揺ぎ、花の間に蝶の舞ふ、うらうらの春の日、淑景の美、

是区域北草稲田に在る大隈伯爵の庭園菊花壇の眞景也、紅黄紫白の大小輪、錦繡星の如く咲き並び芳香紛々一白菊の庭に餘りて散まで」の感あらしむ、元此地は高松藩主松平頒聰氏の別邸なりしが、明治十七年大隈伯の邸宅となれり、爾園内には松林あり楓林あり丘あり溪流あり、梅櫻桃柳其間に點綴し、景致秀絶、天下の風物は收めて一園の園内に在り

Display of chrysanthemums.

菊花壇

是は芝公園の裏通り即ち、北方銀杏坂より南方瀑天池畔に通ずる両側の杉並木なり、枝頭交錯して蓊鬱形を成し、畫猶暗ぶして編蝠の飛んかたるを見る、驟雨一過して涼風袞袞が渡るの突、高吟調歩散策一番せんか、炎熱忽ち去て秋風來るの感あり

Cryptomeria avenue in Shiba Park.

芝公園杉並木

Mausoleums of the Tokugawa Shogun in Shiba Park.

廟靈御園公芝

Guest-chamber in Kagetsuro Restaurant.

花月樓の座敷

是は京橋區竹川町に在る花月樓の客座敷也、其建築の精美に加るに什物器具の眞好を以てす蓋し市内有數の料理店なり

Yaomtsuro Restaurant.

枕橋八百松樓

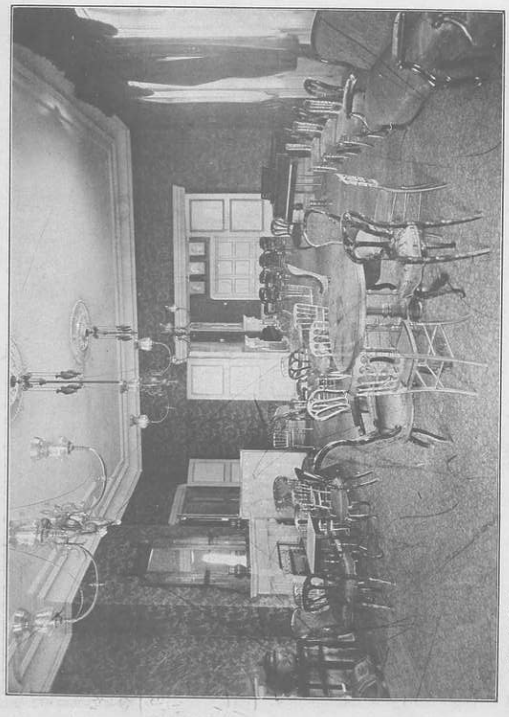
是は向島枕橋々畔の旅亭八百松樓の風光なり、樓上樓下溶々たる隅田川に臨み、金龍山と相對するを以て山水の風致殊に鮮やなり尚春信一たび至れば軒頭より櫻花咲き亂れ綾々十里長堤に聯る恰も彩雲紅霞如の觀あり如し

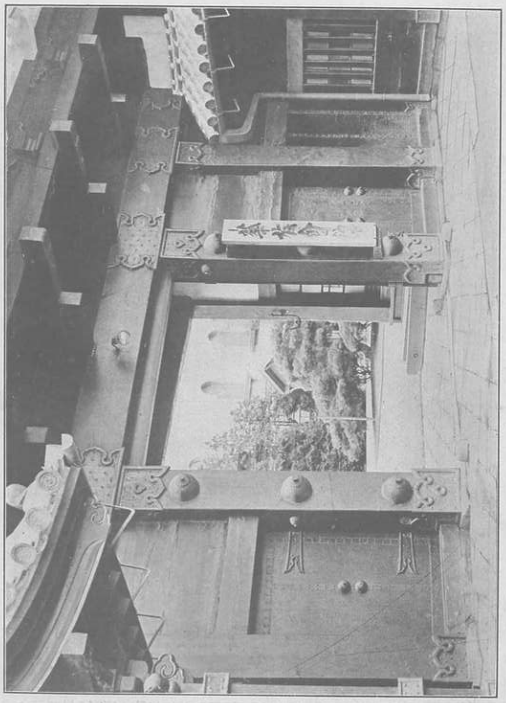
是は芝公園内に在る有名の割烹店紅葉館嬰子手踊の姫姫なり、其演舞の優麗なる、艶妖にして春柳の風に靡くが如く窈窕として秋月の遠山に登るが如し、樓閣の美酒看の佳、是れ順客を喜ばすの主なるものならんも、嬰子二曲の手踊も亦客足を曳くの好磁石なり

Dance in the Maple Club.

紅葉館の踊

是は新橋内山下町に在る華族會館の内部也、内部の構造は、[illegible]、後の今の名に改む、華族諸公の倶楽部なり、最近の調査に依る會員は總數[illegible]千五百名、會頭を蜂須賀侯とす





華族會館

Peers' Club.

是は明治二十三年麴町區内山下町に開設せられたる、市内第一の旅館帝國ホテルの光景也、株式組織にして資本金四十万円と稱す、洋風の構造にして清麗なる客室九十二を有す、來遊の外人は概ね茲に宿泊す、西方日比谷公園に隣接せるを以て食前食後の散歩に便あり

帝國ホテル

Imperial Hotel (outside and inside).

議事堂

Diet Building.

Fire-brigade Display in Hibiya Park.

日比谷公園消防出初式

是は毎年一月六日を以て擧行する消防出初式の壯觀なり、鐵紺東雲を破つて滿都に響けば、組中經に向ふ鉢巻、四十八枚の馬溪を翻風に纏ひ、木遣りの聲勇ましく日比谷公園に群集す、型の如く式を了れば直ちに餘興に移る、四間半の竹梯子廿三挺は一直線に聳立し、何れも遙日を以てガチリと支ゆれば、壯夫猿の如く經頂に驅け登り、谷渡り春蟲、下り藤林、冷も巢作る蜘蛛の如き放れ業を演じ、鳥刺ぎ來、自轉車競爭、避難競爭等、輕妙敏活なる動作に見物の眼を冷さしむ、實に男子の面目江戸の花。

Temple of Zojoji in Shiba Park.

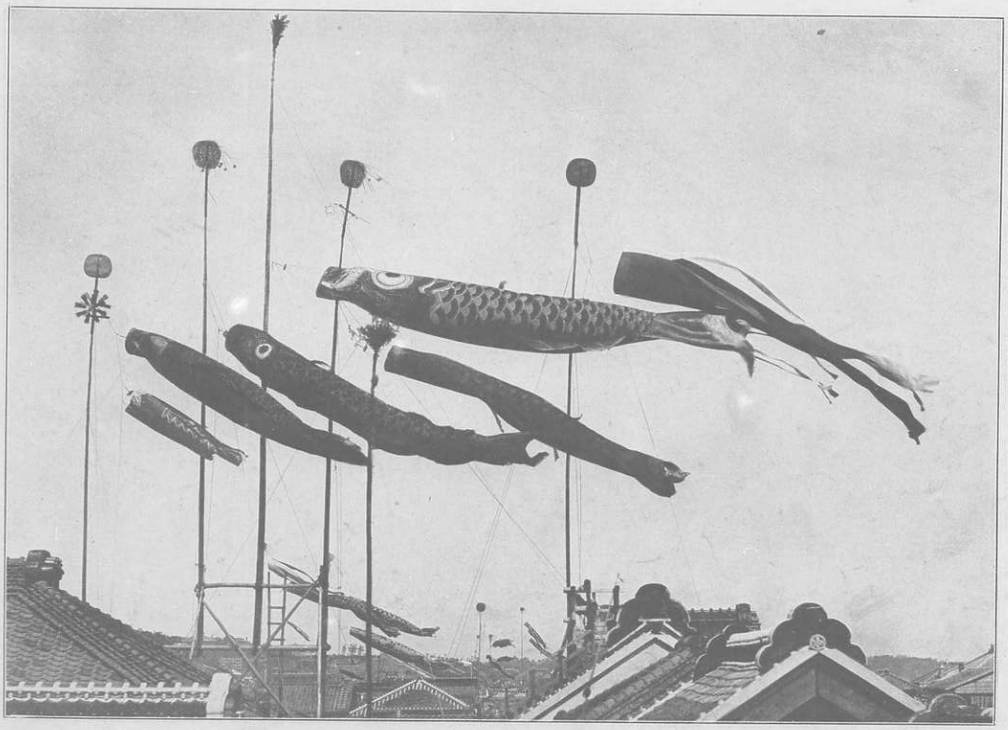
芝公園增上寺山門

是は圓東淨土宗の總本山、十八增林の冠首たる紫山增上寺の山門なり、寛永元年（今より二百八十八年前）の營築にして一名三解脫樓と稱す、明暦延寶の大火をも免れたる古建造物なり、當寺は德川家の菩提寺にして法燈傳灯其名全國に藹さ、將軍代々の遺骸は上野寛永寺と當寺とに隔代に葬り、別當宿坊を置き、堂塔伽藍の輪奐たる精美を極めたりしが、數度の火災に罹りて今日の壯觀なしと經も、東京四大公園の一に位し、面積十六万八千餘坪、春花秋葉松杉の樹を飾り、風光幽邃心目を慰するの好適地なり

Festival of the Kotohira Shrine.

金刀比羅神社

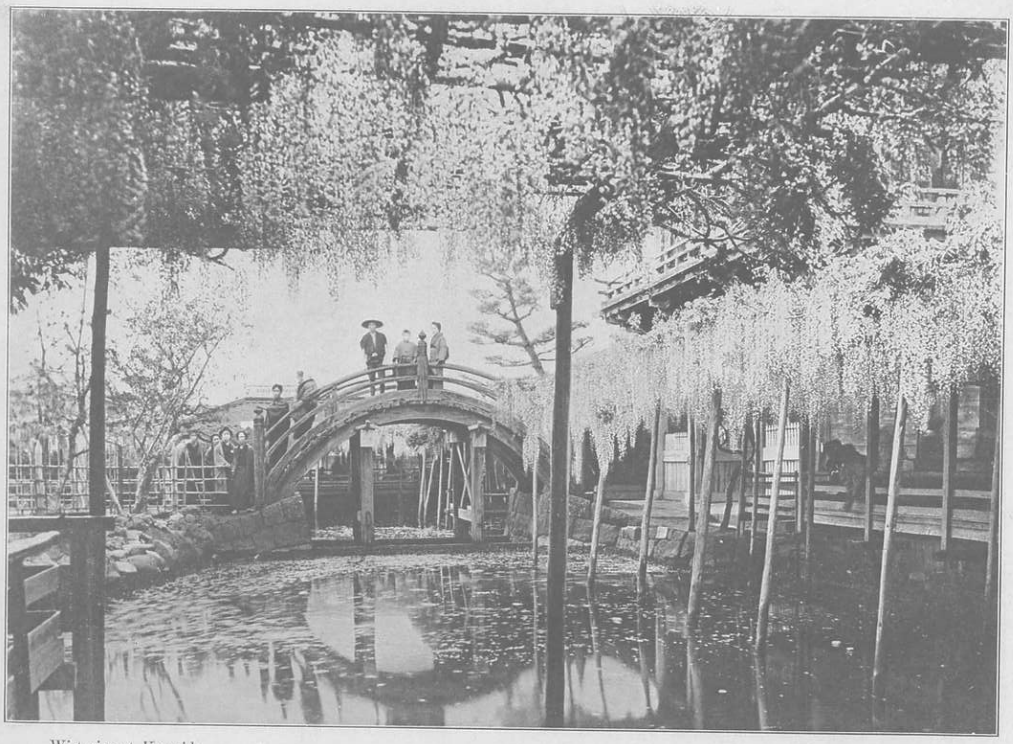
是は芝區琴平町の一端に在り、虎ノ門の側に在るを以て俗に虎ノ門金刀比羅といふ、文化年間讃州象頭山金刀比羅宮の分靈を遷祭せしもの、祭神は大物主命、崇德天皇の二柱にして明治六年府社に列せらる、毎年十月十日を大祭とし、毎月一、十、廿日を緣日とす、參詣人の多きこと蠣殼町水天宮と伯仲の間に在り



Feast of Flags.

五月幟

是は市内に於て端午の節句を祝する爲め、鯉幟を揭揚したる光景なり、昔光仁天皇の天應元年（今を距る千百三十餘年）蒙古軍我が邊疆を侵す、早良親王旗旗を飾り兵仗を壯にし、出でゝ之れと對陣す、敵軍其威容の堂々たるに怪き戚はすして退く、之れ恰も五月五日なりしを以て、爾後毎年此の日を戰勝の紀念日と定め、家毎に男人形を飾り幟、吹流しを樹て、上下相共に戚意を表したりといふ、今は小き男子在る家の祝事となりしも、現在の鯉幟は頗ふに吹流しの變化せしものならん、鯉は古へより出世魚と稱し珍重さるゝもの故、其形ちに擬して前途の發達を祝したるものならん、恰說頗多し

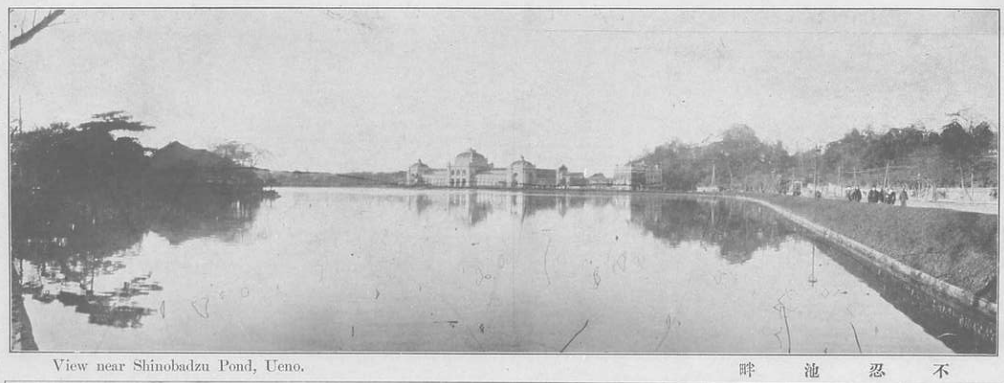


Wistarias at Kameido.

亀井戸藤

是は市の東端本所亀戸町の一角に在る天神社内の反橋なり、側面より見る時は恰も太鼓の如き形あるを以て此名あり、本社は寛永中筑前太宰府天満宮の別當大鳥居信祐の勧請にして庭園の如きも赤太宰府の天杜に擬して造りたるものなり、池畔の藤花は關東第一と稱し、花房垂るゝこと五尺、臭々として環珞の微風にゆらゆら如し

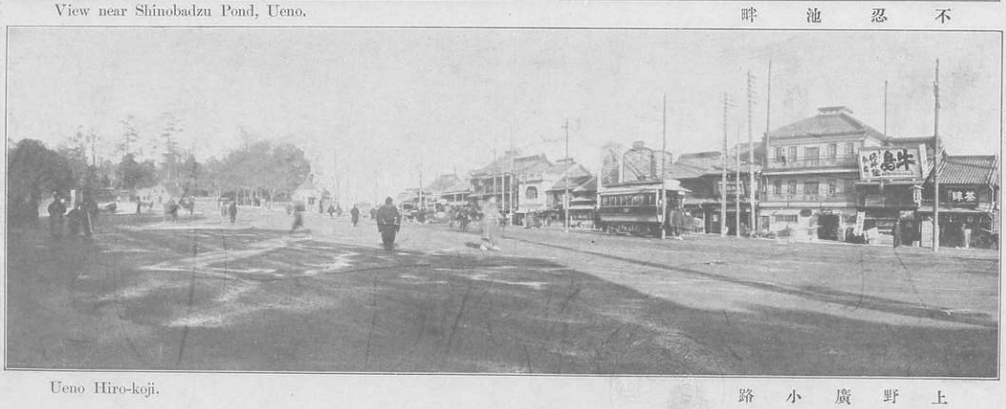
鯉刻て藤の花房乱れけり　むらさき



View near Shinobadzu Pond, Ueno.

不忍池畔

是は上野公園不忍池畔の眺望也山としては美なる東叡山あり水としては艶なる弁天池あり即ち山水の勝景と雪月花の風光とを兼ね備へたる佳境なり



Ueno Hiro-koji.

上野廣小路

是は東叡山の南麓上野山下町の光景也電車は縞々さして南北に走り汽車は轟々として東西に驟て、帝都東北の關門なるを以て諸人の來往陸續さして織るが如し

Morning-glories at Iriya. 入谷朝顔

是は東京第一と稱する下谷、入谷町朝顔園の光景也、年々珍花を作りて人の需めに應ず、故に花期に至れば毎曉觀客群を爲す、土地又市の街衢に在るを以て、小草に光る露の玉、稻葉を渡る風の音、いと爽やかにして野趣殊に深し

Lotus-pond. 蓮池

是は上野公園不忍池蓮花滿開の光景なり初秋の候に至れば紅白の大輪講池を飾りて芳香を放つ、其風色の秋麗なる恰も繪畫淨土の繪卷物を展べるの觀あり、「吹殺の浮葉に烟る蓮見かな」とは蕪村の句

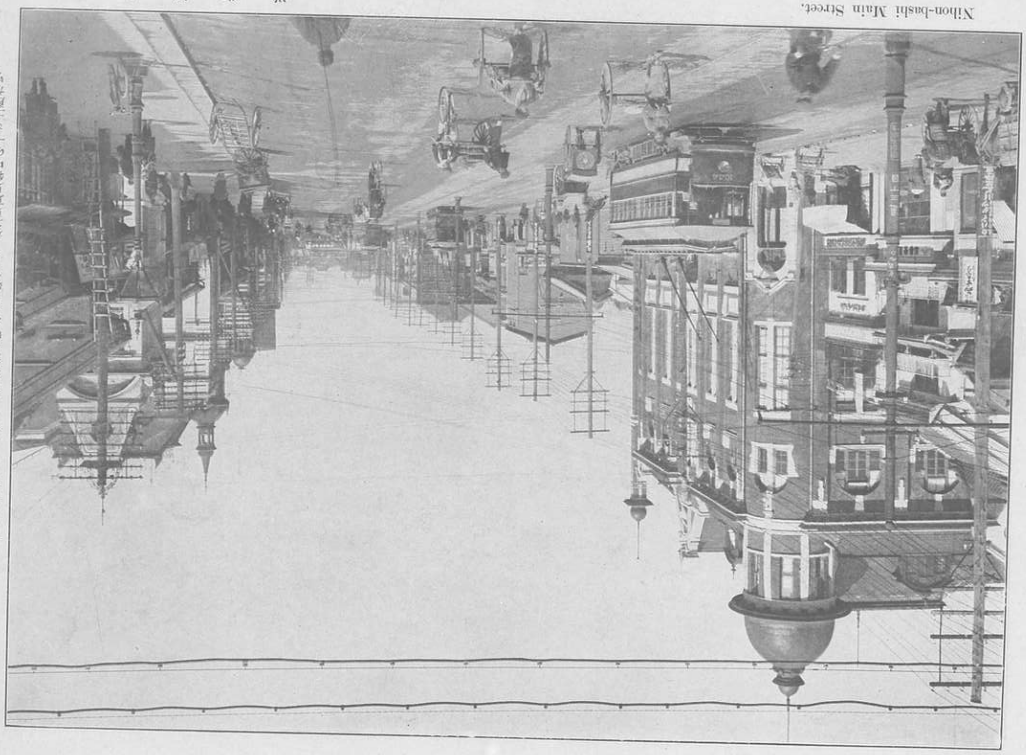
Shimbashi Station. 新橋停車場

是は我國鉄道創業の當時即ち明治五年九月十二日　東宮親臨して開通の盛典を擧げさせられたる新橋停車場の現狀也橋道美ならず規模大ならずと雖も內國五千哩の鉄道を產出し、今日の恒産を擧げたる母體なれば、我が交通史上に特筆大書して本邦鉄道界の紀念に供すべき也

廣瀬中佐銅像

Statue of Lieut.-Commander Hirose.

廣瀬中佐は海軍中佐で、旅順閉塞の際、部下の杉野孫七を捜して、敵弾雨の中を、ボートを漕ぎ廻り、遂に、杉野の死骸を見つけ、之を、ボートに乗せ、自己の身を、敵の、弾丸に、曝しつゝ、ボートを、漕ぎ、出でんとせしが、一発の、敵弾、中佐の、右、こめかみを、貫き、中佐、ボートの、中に、倒れ、杉野、中佐、共に、死して、帰らざりし、英雄、中佐の、像は、永井武士氏の、製作、にして、神田、須田町の、一角、万世橋に、向かふの、左手、歩道に、建てられ、立ち、なから、眼、を、閉じ、、、



Nihon-bashi Main Street.

道街橋本日

是は東京日眞うの大通りとして商業の中心點として名高き日本橋通りの來往人馬車輦雜踏の中間に、熟百の人夫數り、建築運搬作業の一とゝ生氣を呈し、是又東京名物中の一とゝ稱せらる

日本橋

Nihon-bashi.

是は德川幕時代よりお江戸日本橋と謳はれたる有名の橋梁なり、始めて之を架したるは、今を距る二百五十四年前即ち萬治元年の昔なるを以て漸く腐朽に屬し、明治の初年和洋折衷の本橋に改めたりしが是又破壞に帰したるを以て愈々大改築の工を起し、本年四月三日神武天皇祭の吉辰を卜し、盛大なる開橋式を擧行せり、橋堡、橋梁悉く花崗石より成る、結構優大遠く之を望めば白虹の横はるが如し、實に市街の一大壯觀なり

是は日本橋通一丁目に在る有名の呉服店白木屋陳列場の一端なり、同店は今より二百四十餘年前即ち寛文二年初代大村彦太郎氏江州長濱より出でて茲に店舗を開き爾來連綿として繁昌な繼續して、現代彦太郎氏は十代目の店主なりと云ふ、内外の織物、洋服地、和洋小間物、洋傘、化粧品等時の流行を逐ひ人の嗜好に投ずるの結構、一として備はらざる所なし

Show-room of the Shirokiya Dry-goods Store.　　白木屋呉服店陳列場

Show-room of the Mitsukoshi Dry-goods Store.　　塲列陳店服呉越三

越三呉服店は明治二十九年三月三日を以て創業し、爾來今日に至る迄三十有餘年間に於ける業績は、一日千秋の感あり、同店は今より十年前、即ち明治三十七年三月三日を以て、資本金八十萬圓を以て、株式組織となし、爾來益々隆盛に赴き、現在の資本金は、二百五拾萬圓に達せり

是は日本橋と荒布橋との間に在る市内第一の魚市場なり、東京近海の魚介は言に及ばず、遠くは直江津便にて盛に輸入し、毎日朝市を開きて之を各魚商に販賣す、部下二百万人の食膳に上る珍味佳肴は其供給を此處に仰がざるものの稀なり、御魚貝記を見よ。湯川氏別國の

Fish-market.

魚河岸

初め播州西成郡佃村の名主森孫右衛門側、大和二村の漁夫三十餘名と共に此地に來り、官許を得て江戸近海に漁業を開き、其子九右衛門市場を日本橋河岸小田原町に設けたり、寛永年間中木材木町に新場を開くことあり、現在の魚市場即ち是れ、蕪翁句あり「鯨倉や生きて出けん初鰹魚」

是は神田、多町青物市場の現況なり、慶長年間名主河津五郎太夫なるもの始めて盛に野菜市を開き漸次隆盛を極め、正德の頃より幕府の青物御用を命ぜられ、天保中には青物役所を置く、孫部下第一の稱あり、明治十年組合組織を成り其事務所を連雀町に置く、毎年の賣上高約八十万圓に達すと也

Vegetable-market.

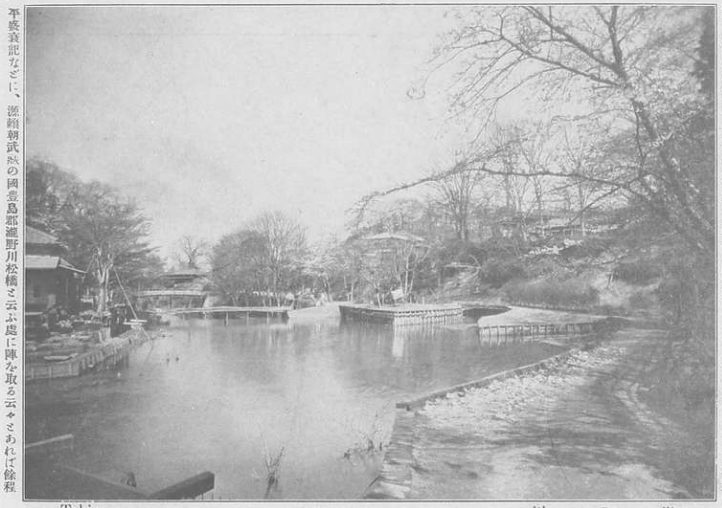
青物市場

Mr. Shibusawa's Garden.

園髮瑞澤渋

渋沢男爵邸の庭園は、王子の別邸にあり、滝中庭園の風趣に富む、

是は紅葉の名所として名高き府下北豊島郡瀧野川の風景也飛鳥山より七八丁、石神井川に臨める崖上にして楓樹は水を夾んで其両岸に在り、秋霜一たび降れば萬朱悉く紅錦を翻し恰も絳霞の棚引が如し、瀧の川の名は水聲深き瀧の如くなるより名付けたりと云ふ、又源平盛衰記などに、源頼朝武蔵の國豊島郡瀧野川松橋と云ふ處に陣を取る云々とあれば餘程古くよりありたる地名なるべし

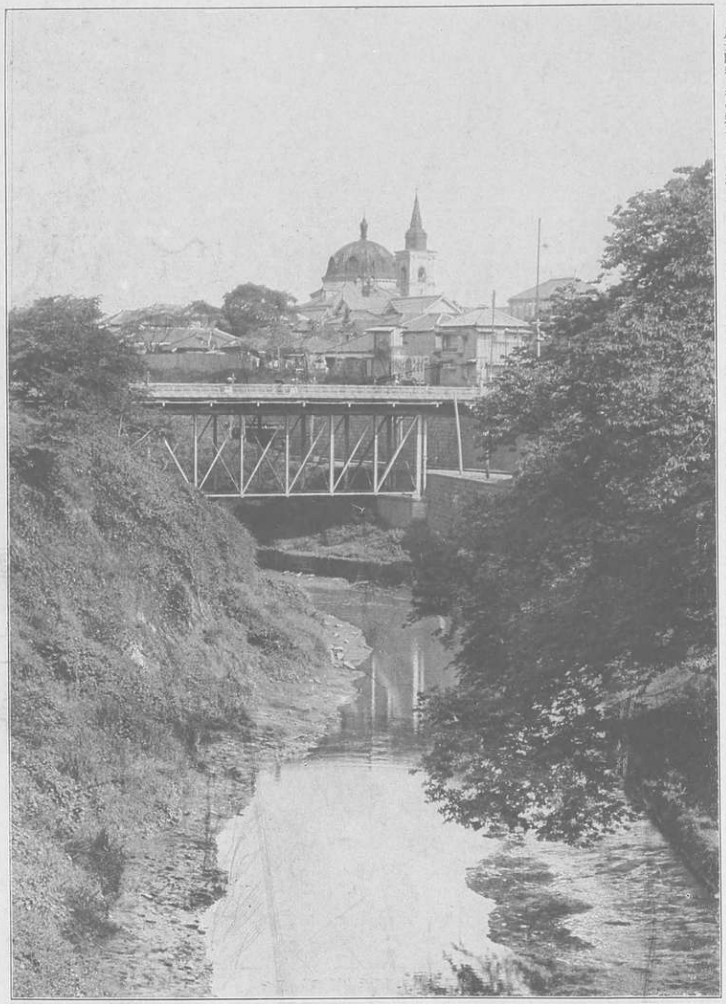


Takinogawa. 瀧の川

是は上野驛を距る約三哩、王子驛の西側に在る一帶の丘陵にして明治十四年公園に編入せられたる勝地なり、元享年間豊島業、飛鳥明神を此地に祀りたるより此名あり、左れど其社は寛永十年王子稲荷の境内に徙され今地主山と稱する小高き處其跡也と傳ふ、櫻樹は元文年間八代將軍吉宗の命に依り茲に栽培せられ同四年勅使冷泉爲久卿のもゝてられし「折枝の色香を見ずば飛鳥山花の處の春も知られじ」てふ一首の和歌台聽に達し爲久が詠に入りしかちには、名所に進じて然らんその仰せありしより終に江戸名所の一ッとなりしといふ、西には富士の素嶺を仰ぎ、東には筑波の紫峰を望み、荒川の流れ墨田の水、皆壁眸の間に落ち風光掬すべき也

Asuka Hill. 飛鳥山

是は本郷お茶の水即ち暮時お茶の水に用ゐし一名泉の在りし處なり、神田川開鑿の時までは猶水際に其遺跡を存したりと云ふ、両岸削立して屏障の如く峙ち淵水沿々若に瀉せびて流る、風光勝絶、彼の宋朝の詩人蘇東坡が謫ひたる赤壁の景致に似たりと稱し、古來詩歌人の賞愛する處、橋なお茶の水橋と唱へ、其天邊に聳立する樓閣は別項記載のニコライ教堂なり



Ochanomidzu. お茶の水

Cathedral of the Resurrection (inside).

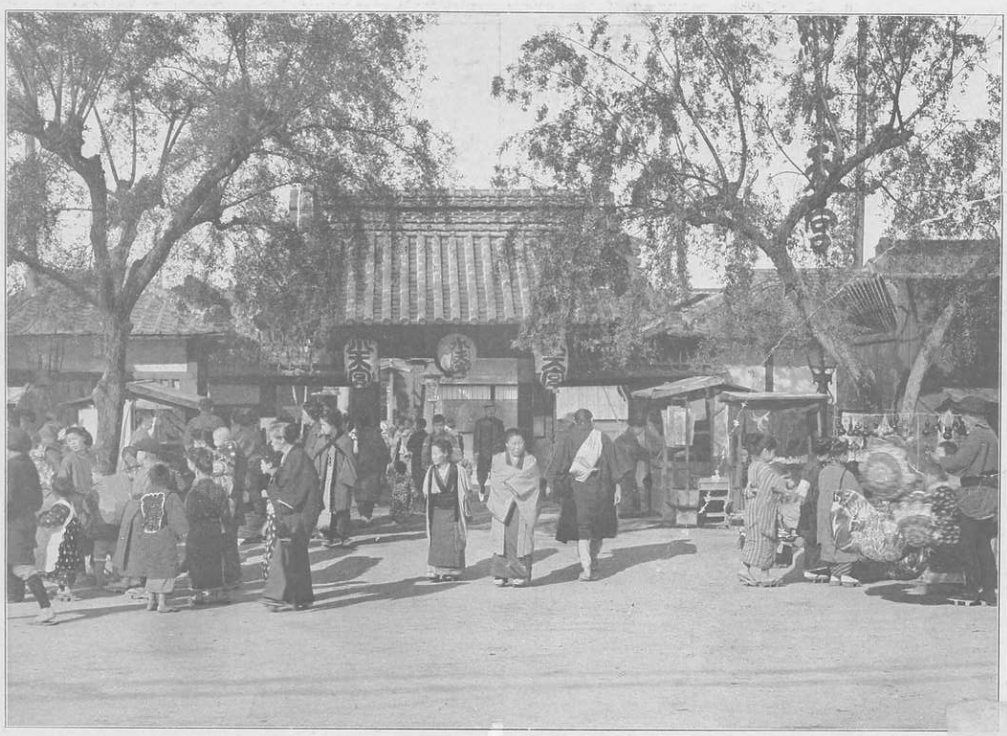
聖教イラヨニ

是は日本橋區兜町に在る東京株式取引所の外觀なり、明治十一年五月の創立にして各國公債株式の相場を定めつゝ取引賣買を營む所、其業務の敏活にして取引の多大なる一見目を驚かすに足る、現在の資本總額は一千二百万圓實に全國經濟界の一大機關たり

是れは前項株式取引所内部の光景也、日々幾百千の人來りて賣買を競ひ、一揮手一抄足の間に萬金の取引を挑む、實に平和の戰場なり

Tokyo Stock Exchange (outside and inside).

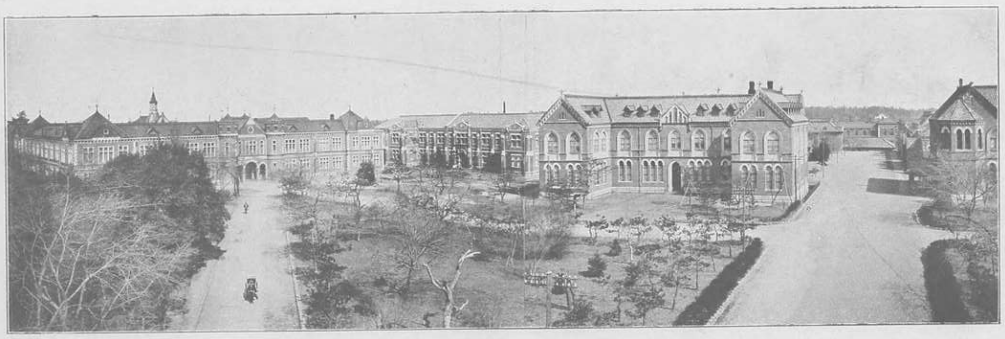
東京株式取引所

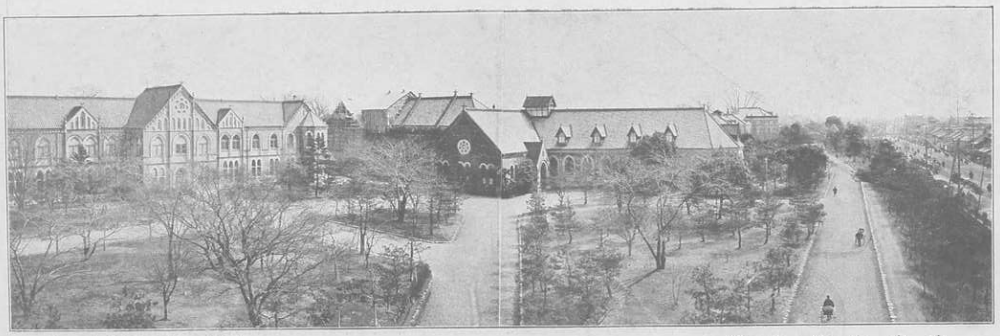


是に日本橋區蠣殼町有馬邸内に在る水天宮の社前なり、祭神は安德天皇にして文政元年始めて筑後久留米の本社より三田赤羽馬邸に勸請し、明治中興の後一時赤阪に遷したりしが、明治五年新築成りて今の地に遷座せり毎月五日の祭典には衆數方の参詣す、市内幾多の繁日中、其繁昌本社の右に出るものなし、以て其神德のいやちこなること知るべき也

Shrine of Suitengu.

水天宮





是は舊加賀藩百萬石の屋敷跡に建てられたる帝國大學の校舍なり、高等專門學の濫觴を究むる所にして醫科、法科、文科、工科、理科の各科に分れ、構造孰れも壯麗を極む表門は昔ながらの赤門にして本郷六丁目に聳立す故に本校より出たる人を俗に赤門出身と云ふ、校内十万廿五坪、建坪一万七千百八坪と稱す、角帽の學生日々此の中に出入するもの幾千人所謂未來の英雄豪傑を産出する國家元氣の泉源也

Imperial University of Tokyo.

東京帝國大學

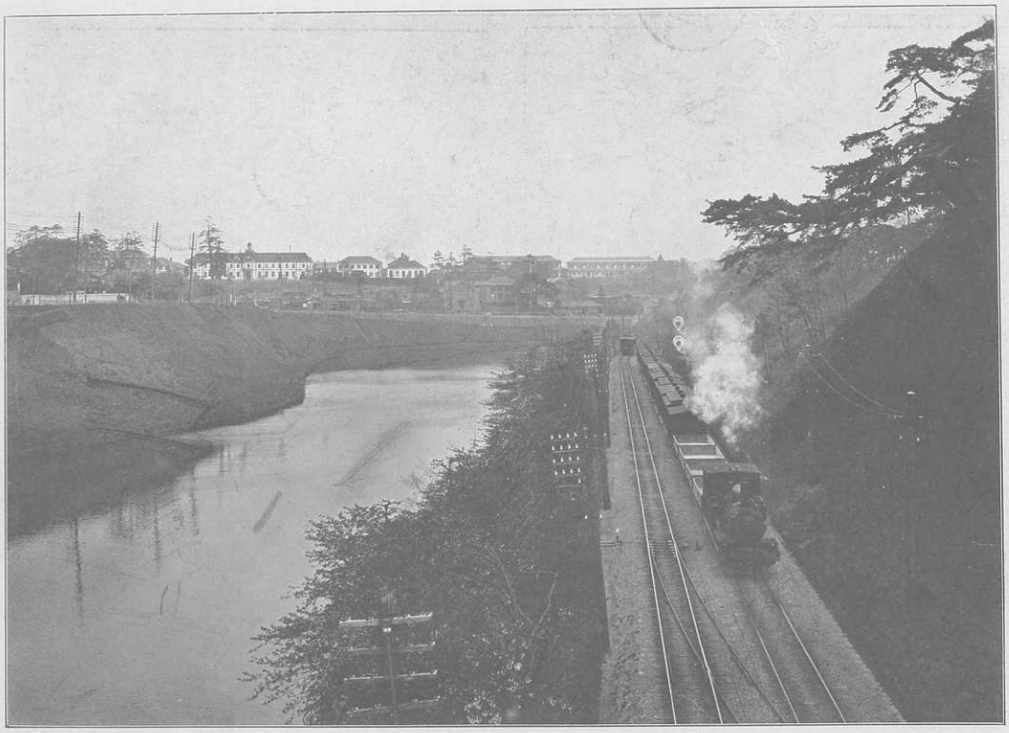
是は本郷區本富士町に在る雄加州金澤百万石の大主前田侯爵邸の内部也、隣地帝國大學十万坪の敷地も、元は前田家の所有にして城北名代の大屋敷なりしさいふ、今は其一局部に過ぎざるも、樓閣の輪奐、庭園の優美世間多く其比なし見て、宜なる哉　國陛下の巡幸東宮殿下の行啓を辱ふしたる本邦名譽の邸第なり

前田邸

Marquis Maeda's Mansion.

橋　慶　雅

Benkei-bashi.



是は四谷見附より市ヶ谷方面を望見せる光景なり近く下を疾走せるは甲武線の汽車及電車にして遠く彼方に聳立せるは陸軍士官學校なり

View of Ichigaya seen from Yotsuya-mitsuke.

四谷見附より市ヶ谷方面を望む

是は俗に九段招魂社と稱し麹町區富士見町に在る官幣中社にして維新の變亂其他の國難に殉したる諸士の崇敬な祀りする處、社殿の結構上古の風に擬し、金碧五彩の燦爛たるものなきも高傑にして自ら壯麗を加ふ、梅は春風に誘はれて綻ぶ、庭園の風致又賞すべき也、側らに遊就館あり軍旗銃砲等の戦利品及其他の武器兵具を陳列す、又社前には故兵部大輔大村益次郎の銅像聖心日清の役海城より奪ちしたる石造のライオン杯見るべきもの多し

Yasukuni Shrine on Kudan Hill.

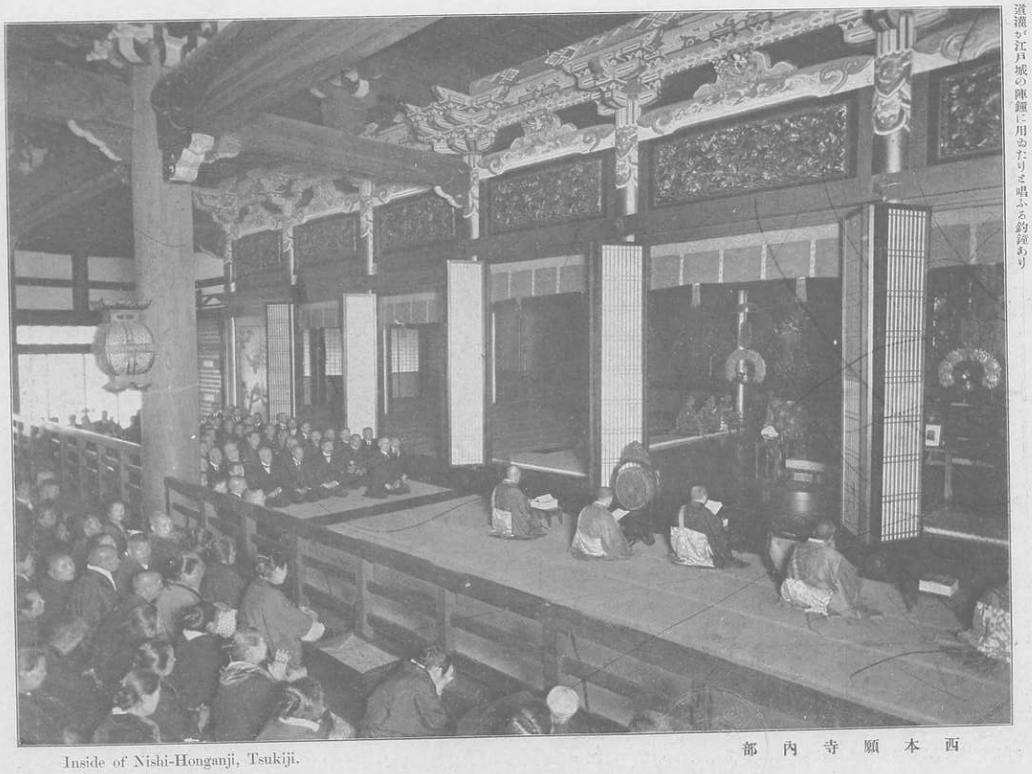
靖國神社

是は參謀本部内に在る故有栖川熾仁親王殿下御乘馬の銅像也別項參謀本部寫影の中にも記せる如く親王は竹の園生の御身にて、しゝながら明治元年國事掛を爲り明治二年征討大都督に任ぜられ賊徒を平定せられたる功に依り世祿千二百石を賜る、十あ西南の役起るや征討總督を爲りて官軍を指揮し、事平らぎて陸軍大將參議に拜せられ大勳位に叙せらる、十三年左大臣に任じ十九年近衛都督を爲り廿二年參謀總長に轉ず、廿七八年日清役起るや大本營に在りて勝も謀策に勉め功を以て金鵄勳章功二級に叙せらる惜哉一朝三豎の犯す處となり二十八年一月薨ず御齢六十有一

Statue of Late Prince Arisugawa. 有栖川宮銅像

Statue of Late Prince Kitashirakawa. 北白川宮銅像

是は麹町區代官町竹橋近衛兵營前に建てられたる故北白川宮能久親王殿下の銅像なり、親王は安政中江戸東叡山に入り、輪王寺宮又は上野宮と申し、慶應三年彼の彰義隊の渦中に投じ賊害を背め給ひたる御仁方也、廿五年陸軍少將を爲り、廿八年近衛師團長に進み台灣征討の命を奉じ、匪徒攻伐に偉功ありしも惜哉病を得へ軍中に薨去せられたり、御年四十九、朝廷功三級金鵄勳章を授け、陸軍大將に叙して國葬を營み、以て其英魂を慰め給ひたり



Inside of Nishi-Honganji, Tsukiji. 西本願寺内部

是は築地二丁目に在る西本願寺別院の内部也明和三年淺草濱町（今の日本橋區）に一宇を建て海運御坊又は濱町御坊と稱せしが、明暦の大火後今の地に移りたり、境内一万二千七百餘坪、現在の殿堂は明治三十四年に成りたる紫宸殿式の築造なり、又鐘樓には太田道灌が江戸城の陣鐘に用ゐたりと唱ふる鈞鐘あり

是は小石川區大塚坂下町に在る、神齡山護國寺と名墨覆院の外觀と內陣也、將軍家光守持の如意輪觀音（佛体は城珀なり）を本尊とす、後丘な壹島が國を稱し、皇室御祈願の一に供せらる、珍奇の寺寶頗る多く東京著名の佛閣なり

護國寺

Temple of Gokokuji.

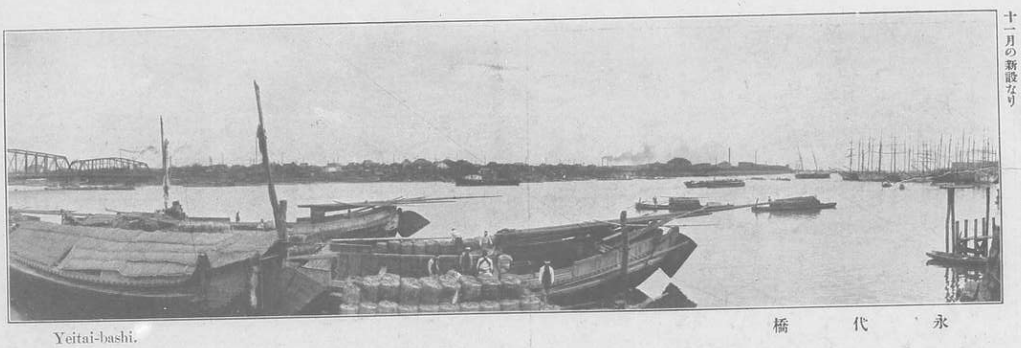
汐干狩

Shell-gathering.

Pleasure-boat on River Sumida.

舟遊び

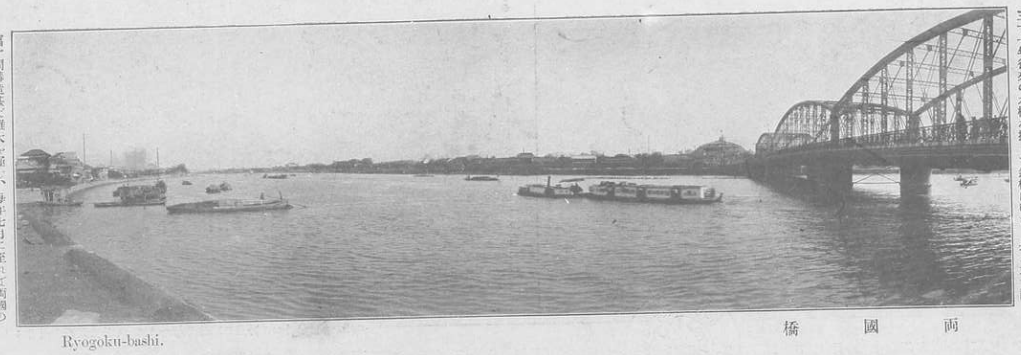
古來隅田川の舟遊は粋の粋なるもの、花に好く月に好く又雪に好し、一葉の舟に棹さして嬬野森の首尾の松、言問ひの邊りより都鳥の迹を逐ひつゝ、今戸橋塲の烟を望み、小松島の流しか、水神の社に船を繫ぎ、茲より徒歩して木母寺に梅若塚を吊ひ、白鬚の社に猪田産の命を拜し、幸ひ長命寺に縛りて櫻餅に口腹を喜ばし、再び舟に戻りて身を水の流れに委ね、富士を指さし筑波を顧みて興を遊すは君子の遊、尚舟遊の情を深からしめんと欲せば、到る處に酒地あり肉林あり



Yeitai-bashi.

永代橋

是は隅田川の下流に架したる永代橋にして其長さ百五間幅六間三尺と稱す、架橋の初めは元祿十一年なりしが後屢々洪水の爲め流失し現在の鉄橋は明治三十一年十一月の新設なり

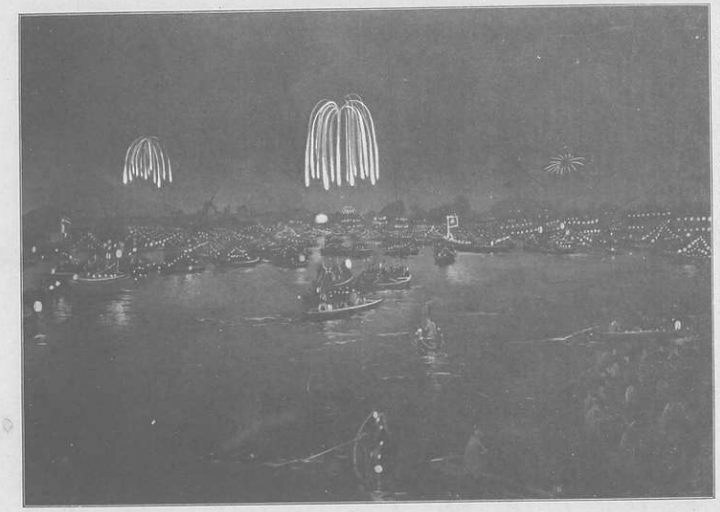


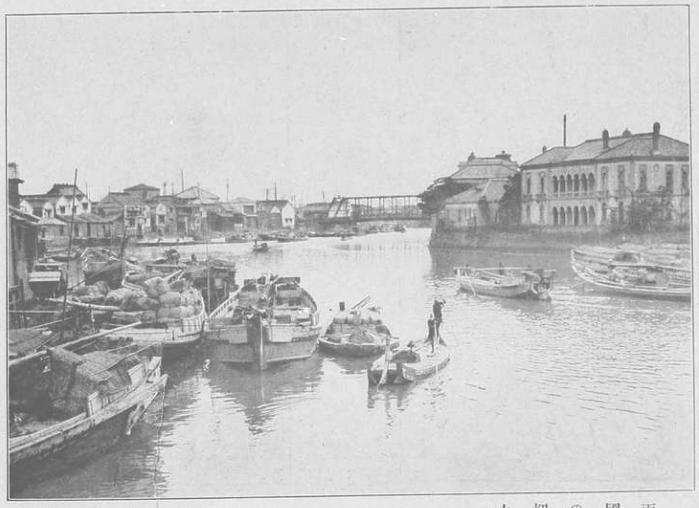
Ryogoku-bashi.

両國橋

始めて此の橋を架したるは萬治二年（今を距る二百五十三年）にして當時隅田川に武藏下總の國界なりしを以て兩國橋と命名せり、爾來數度の修工を加へ明治三十七年從來の木橋を排して鉄橋に改む、長さ九十間幅十間橋道甚だ雄大なる極む、毎年七月に至れば兩國の川開きと唱へ水上に於て幾千萬の烟花を打揚げ、互に華を競ひ家を開ぼす實に一郡千金の壯遊なり

是は毎年秋期隅田川橋場即ち隅田川に於て開催する川開きの盛興也、彼の有名なる寄角觀旺のものせし江戸繁昌記の一節を抄して烟火の光景を叙せん曰く鑁嚴未だ響かざるに電光空に閃めき、一塊の火砕けて萬星と爲り、銀龍影滅ぜんと欲して金烏翼既に疲れ、丹鳳船に入り、火鼠波に走る或は欄上に榮華花を燒出し或は架間一齊に紅球燈を燃生し寶塔絢樓千化萬現す、眞に天下の奇觀也云々、以て實境の如何に盛大なるやを知べきなり





Fire-works at Ryogoku.

両國の烟火

是に淺草公園内に在る天台宗の名藍山淺草寺の堂宇、伽藍大小殿下堂の四方の壁は、本尊の尊容、公園の全景、和洋の建築物、見世物樹木等四面に列なり、和洋の建築物は、公園に目りの壁面にて、其間やがて本邊し園裏後、ならん人樹、見世物樹木等四面に列なり、和洋の建築物は、公園に目りの壁面にて、其間やがて本邊し園裏後、ならん人

ひに便利、又一寸入谷の觀音者淺草の夢なり、本尊の尊容、公園の全景、伽藍の大小殿下堂の四方の壁は、天台宗の名藍山淺草寺の堂宇、伽藍

是は本郷湯島三丁目女子高等師範學校附屬幼稚園の來景也、無邪氣なる男女兒が、教育的遊戯に餘念なき樣見るかちにたのもしく、「今日の子は明日の國の主人公」なりけれ、とは明治九年國母陛下の本校に賜ひたる御詠、即ち學童の校歌として奉吟する處なり

幼稚園

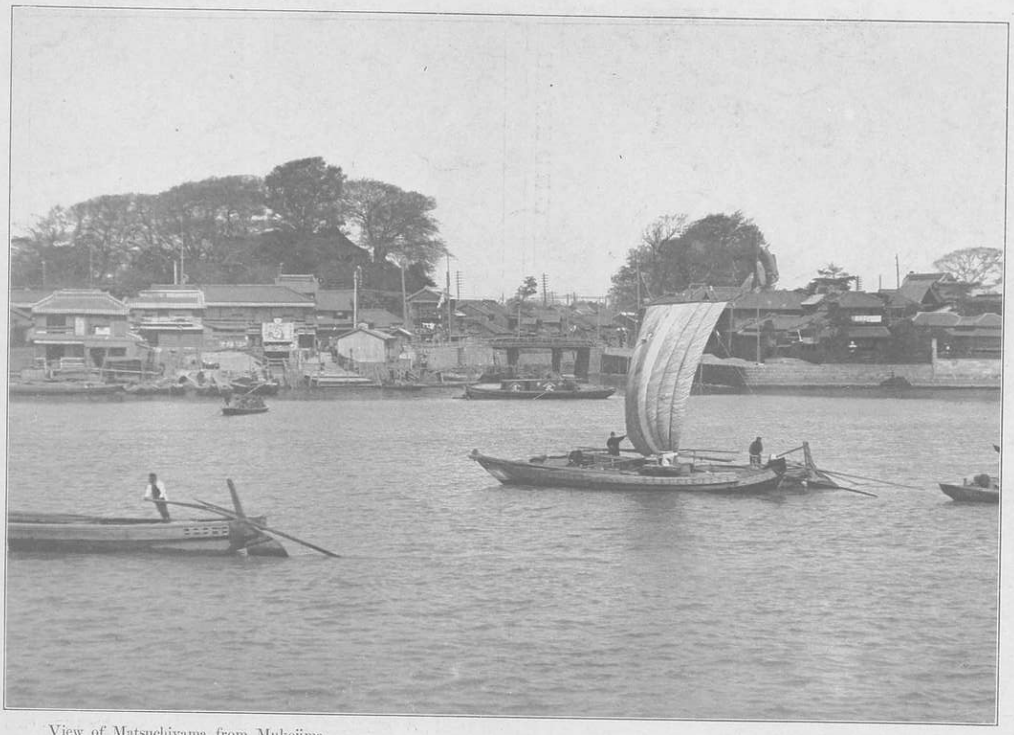
Kindergarten.

是は浅草公園の中門にて、東本願寺の輪番所也、四層三千の高閣にして、一に淺草觀音堂と稱し、東西東本願寺別院と共に市内百刹の筆頭にして、本尊は聖觀音、高二寸六分、金銅の佛像にて、「寺號」万五千六百餘坪、本尊は聖子を中に、春は四月五日の知るべ、秋は彼岸の日の知るべ、「寺號」の事繁しす、「寺號」

是は「何事のおはします知らねども、かたじけなさに涙こぼるゝ」の歌なり

浅草東本願寺

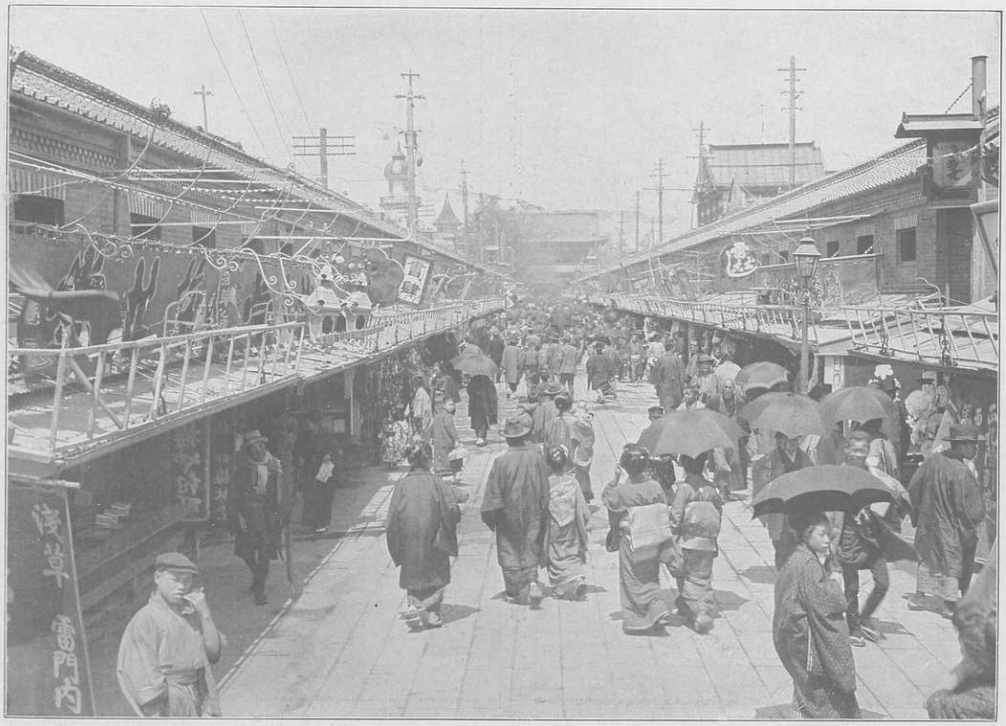
Temple of Higashi-Honganji, Asakusa.



View of Matsuchiyama from Mukojima.

向嶋より待乳山を望む

是は一名金龍山と號し淺草今戸橋の南、聖天町に在る丘陵なり、山上祀る處の聖天は、大同年間の勧請にして江戸聖天中第一の靈場とす、一説に今の日本堤を築く時、此の眞土山の土を取りて築き立てたりと云へば、此の岡昔は嶋高くりしなるべし、今は形ばかりの丘陵なれど東方を望めば墨田川の流れは長堤に沿ふて滔々たり、近くは葛飾の村落、遠くは湯ノ嶺の峯巒一望に入る云々とあり、「夕暮にかめ見飽かぬ隅田川、月に風情に待乳山、帆かけた舟が見ゆるぞいと抔ど爪彈さの音を水に流し、淡酌低唱俗塵を洗ふの適所なり



Street within the Kaminari Gate in Asakusa.

雷門仲見世

淺草觀音前即ち廣小路雷門跡より仁王門迄の間を仲見世と稱し左右に雑貨店飲食店相列なり、奢侈客を華主として之を販賣す、昔は二十軒茶屋又は仙茶屋と唱へ、其茶店にて名高の茶まいれとて、奢侈人と呼び入れしが、當時に家數廿軒に過ぎざりしより此名ありしと云ふ、又寛文圖に據れば此邊を四谷と稱し、知樂院(今の傳法院)梅園院等の十二坊を置き其中に廿軒の茶屋ありと云々と記せり、兎に角古來繁華の巷なり

是は淺草公園内觀物の中心點第六區の光景也、今や減る一座の玉乘り磨れて活動寫眞の流行さ爲り、到る處に招牌を掲げて觀客を呼ぶ、實に斯業の興隆時代なり、此他劇場には常盤座あり寄席には金車亭あり、猿の見世物、ルナパーク、野見の銀街、大弓店、銀舞、釣堀、巷會所抔其數幾許なるを知らず、浮き立つ如き音樂の聲此處彼處に起り、其賑やかなる言聲ふに比なし、尚前面瓢簞池に映したる夜景は、更に一種の趣を存す

Side-show Houses in Asakusa Park.　淺草公園内觀物

Night-view of Asakusa Park.　仝上夜景

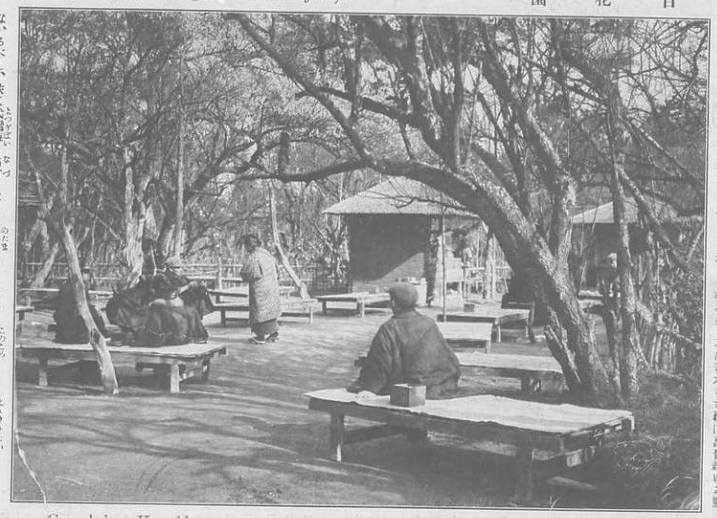
〈しんしのいけ〉

緑なす柳の上に明月を眺めつゝ、涼を求むるの人多し、夜に入りて、水面に映ずる光景、殊に美しく、人をして、思ひ、詩を作り、歌を詠ずるの情を起さしめ、一日の勞を忘れしめ、人をして、「月は、東に出でて、人は、歸らず」の感を、起さ

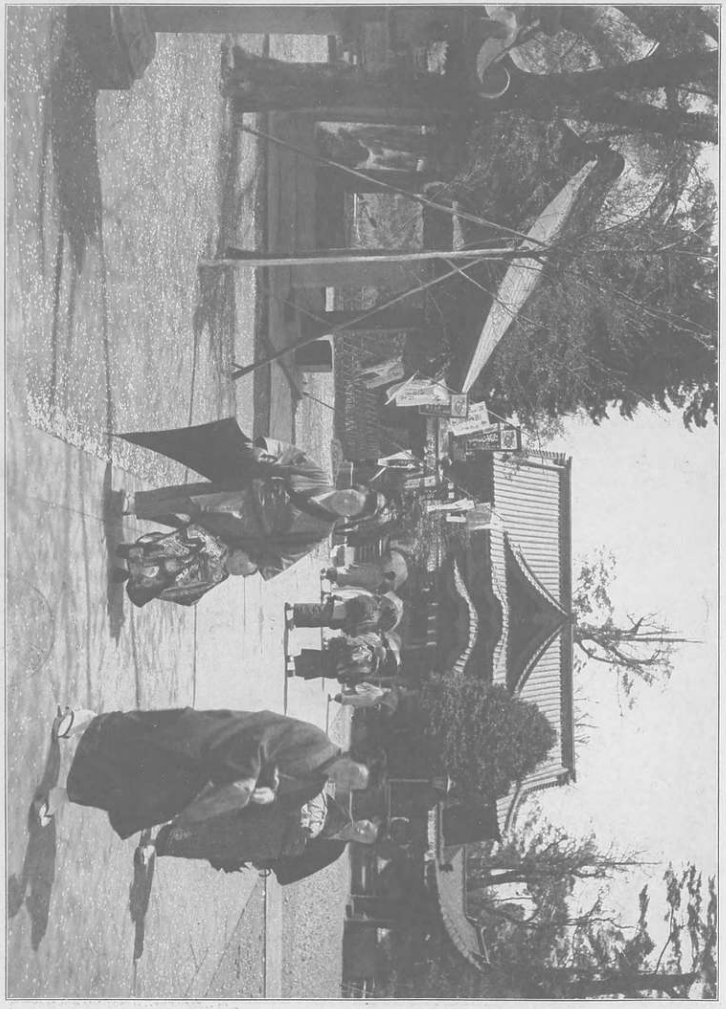
是は向島白鬚神社の側らに在る有名の百花園にして、文化年間北野屋彌場（名は平兵衛）の開設せしものにて當年の雅客亀田鵬齋、太田南畝、村田春海、加藤千蔭、酒井抱一、谷文晁等の意匠に成りしと云ふ、梅花を始め百花四時絶ゆる期なし、就中秋の七草を以て名あり、「お菜きこしめせ梅干し帳ふぜ」と書したる招牌は古來觀客の注目に價す

百花園　Hyakkaen (Flower-gardan at Mukojima).

是は廣下南葛飾郡亀戸町の一端に在り、昔百姓喜右衛門此地に梅を植え置きしに、年を逐ふて古木となり水戸中納言光圀卿賞美の餘り臥龍梅の名を給ひ、又享保年間八代將軍吉宗公田畝の途次上覽あり、此梅は他木と異り枝より根を生じ再び若木となれば萬世絶ゆる期なかるべし、依て代龍梅と名付くべしと宣びたりと云ふ、此頃より其名遠近に高まり、都下第一の梅園として登觀せらるゝに至りたり、園内清香庵の前に亀井の泉あり、往古此の井中より鯉亀現はれたりと傳ふ



臥龍梅　Garyobai at Kameido.



宮照東野上　Shrine of Toshogu (Tokugawa Iyeyasu) at Uyeno.

東叡山の麓、上野の山の西に當る、天海僧正の開創にして、慶安二年の建立なり、殿宇の結構宏大、彫刻の美、極めて精巧を盡す、殿の前に一基の石燈籠あり、高さ二丈五尺、寛永十年の建立にして、日光山の燈籠と同樣の大型なり

Cherry-blossoms in Uyeno Park.

花櫻之園公野上

是は上野公園山王臺に在る、一世の英雄參議淡陸軍大將西鄉南洲翁の銅像也、容貌慈梧威儀儼然、察々として活けるが如し、明治六年征韓論起るや、木戸、大久保の諸公と意見を異にし、帝都を去て鄉里鹿兒島に歸る、十年私學校黨に擁せられて亂を九州に起す、官軍

Statue of Saigo in Ueno Park.

西鄉銅像

夾擊之を木の葉川尻に破る、怪傑敗兵を收めて城山に退き「我劍已折吾馬斃、秋風拂骨故鄉山」の一詩を賦し彈丸雨注の間に從容として自盡す、時に年五十一、英雄の末路哀むべしと雖も、翁が君國の爲めに盡したる偉功は、忽ち國の櫻花と共に燦々として萬古燦然たり

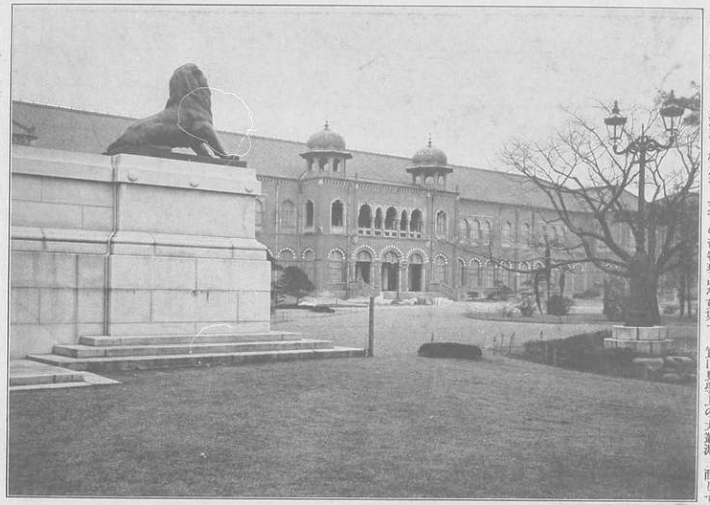
是は西鄉翁銅像の隣地に在る彰義隊の墳墓なり、明治元年幕府政權を奉還し、江戸城遂に官軍の手に歸するや、幕臣天野八郎等憤怒痛罵、輪王寺宮を奉じて彰義隊を組織し、上野山に據りて官軍に抗す、薩長の彈合軍來りて之を包擊す、激戰一日にして幕軍敗れ、八郎

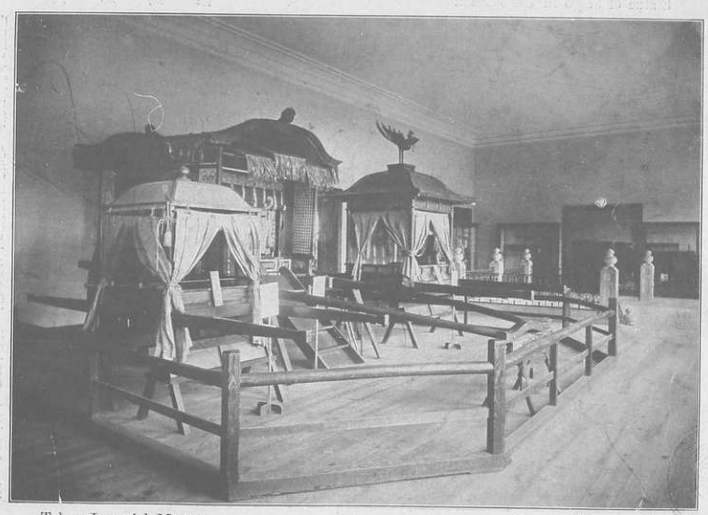
Tomb of Shogitai, Ueno.

彰義隊の墓

以下若干離開して殺る、此地は即ち其遺恨を殺りたる處なり、一茶句あり「散る花に鬼の口にさへ泪哉」

是は明治十五年上野公園内に新設せられたる帝室博物館の外觀及其内部陳列場の一端なり、館内に歴史、美術、美術工藝、天産の四部並庶務、會計の二課あり、敷地三万二千五十餘坪の内建坪千二百廿一坪、常備品十二万八千三百點、外に御物三百三十二點、國寶十點、其他官廳出品四千五百點、私有品五千餘點を有す、又園内には東宮御慶事紀念の表慶館を始め傘松、五角堂、蕉蔭堂、六窗庵、校倉等、天下の寄物珍品を蒐集す、實に見學上の大叢淵、而して其觀覽料を問へば僅かに五錢



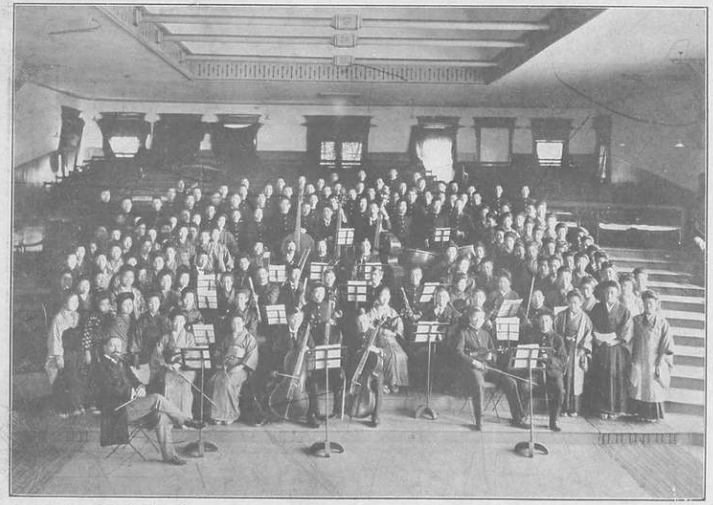


Tokyo Imperial Museum. 博物館

是は上野公園内に在る文部省所管、美術學校内部修學場の有樣なり本校は美術工藝家を養成し、兼て圖畫教員實業學校教員を養成するを目的とす、其科を分ちて日本畫、西洋畫、彫刻、圖案、金工、鑄工漆工の七科とし豫科本科を通じて、修業年限を五ヶ年とす、本校は茲に置さたるは明治廿一年にして位置は元教育博物館の在りし處なり

Tokyo Fine Arts School. 美術學校

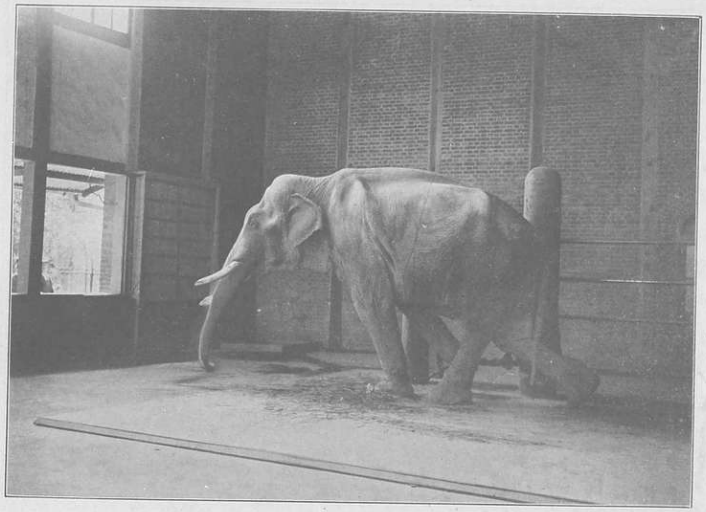
是は上野公園内に在る東京音樂學校也本校は明治十二年文部省内に音樂取調掛に置かれたるに始まり、廿年東京音樂學校と改め今の校舎を築造せり修業年限は豫科一ヶ年本科三ヶ年、研究科二ヶ年師範科は甲種三ヶ年乙種一ヶ年にして生徒自費貸費の二種に分てり

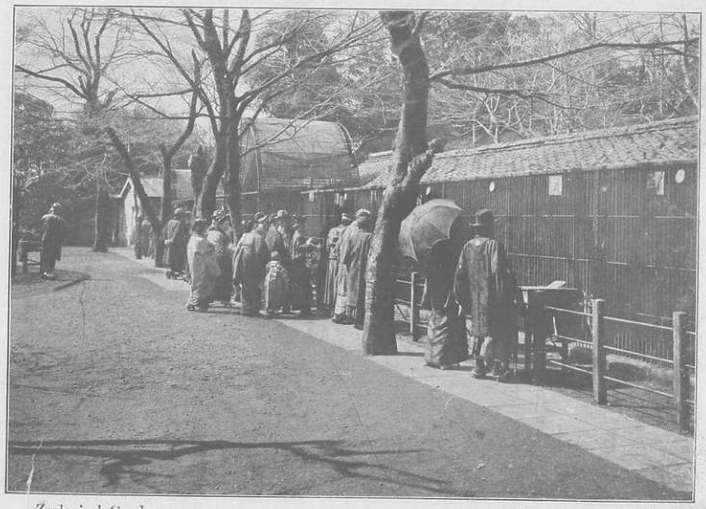


Tokyo Music School. 音樂學校

side and inside).　　館　慶　表

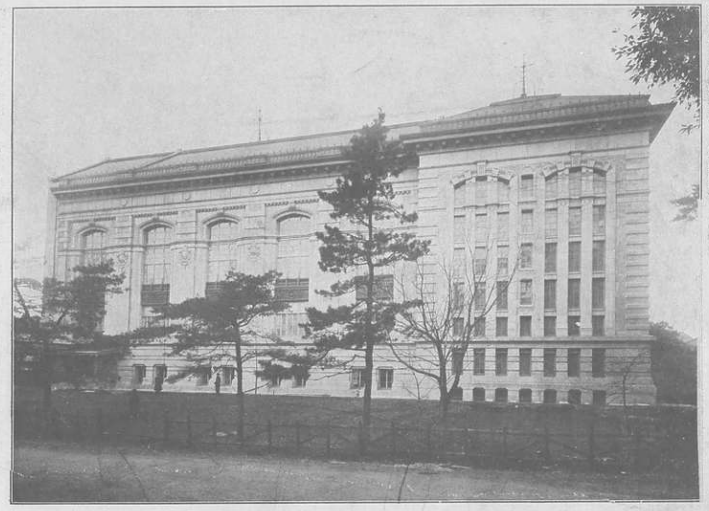
是は東宮御慶事紀念として上野公園博物館内に建築せられたる表慶館の外觀と内部陳列場の一端なり、其建造の精巧美麗なるは言ふに及ばず、各室陳列の器物に皆天下の絶品にして、帝室の御物あり國寶あり、千有餘年の星霜を經たる書畫佛像、古色蒼然として圖書に富つ、其其價幾万金なるを知らず、目の正月とは寔に是れ、





Zoological Garden.　　園　物　動

是は明治十五年此地に開設せられたる動物園の眺景也、内、外の珍禽奇獣を集めて衆庶の觀覽に供す、園内七千餘坪、動物の數六百餘點を有し一ヶ年の觀覽人約七十万人の多きに達すといふ



是は上野公園の北方に在る帝國圖書館の外觀にして、今計畫の四分の一に過ぎずと云ふ、坪數は約三千五百坪を稱す、實に國民の寶庫なり

Imperial Library at Ueno, Exterior and Inte

是は列車の外觀也現在の最急速力は京濱間十八哩を廿七分間に運轉するものと東京神戸間三百七十五哩を十三時間に運轉するものあり、尙當局にては走行力に關し調査中なりと云へば更に速力を加へて貨客に滿足を與ふるに至るべし

Train. 列車

是は鉄道院の急、直行列車に設けある食堂車内部の構造なり、西洋料理其他飲料、食物等同院直接監督の下に販賣す、尙東海道三等急行列車には淡泊にして低廉なる和食を選す、實に長途慰安の設備なり

Inside of Dining-car. 食堂列車内部

是は西洋料理を以て名を知られたる築地精養軒の外觀と客室の内部也調理口に適し建築雄大なるを以て洋風の大宴會には最も適當の所なり

精養軒西店

Seiyoken Restaurant, Exterior and Interior.

Festival of Hachiman Shrine at Fukagawa.

深川八幡宮祭禮

深川八幡宮の祭禮は毎年八月十五日を以て行はるゝ例なりとす、當日は市内の各町より神輿を出し、練り歩くこと、なるが、其の人數の多きは、一時間に通過するもの、二千人に達するの盛況なりとす、

Torinoichi.

酉の市

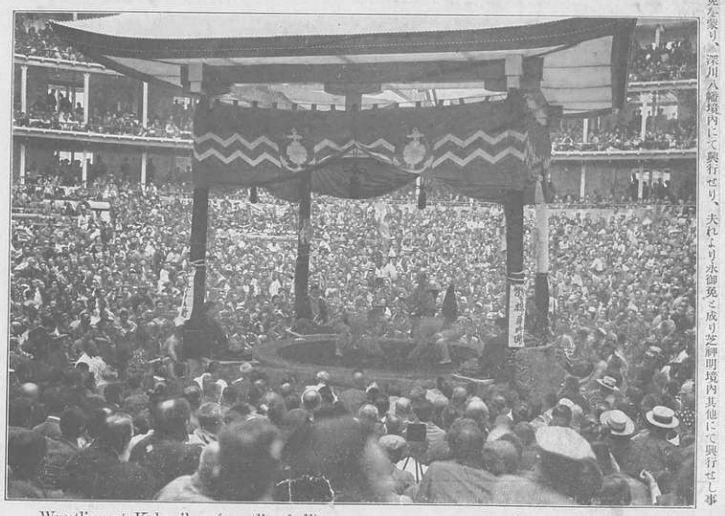
是は淺草區龍泉寺町に在る鷲神社祭礼の光景也、毎年十一月酉の日には境内境外に於て「おかめ」「寶船」など飾りつけたる竹製の熊手を販賣す、巷謡の老若伴ふて之を購ひ、家に傳へて利福を得るの吉兆と爲す、之を酉の市といふ、其當日の雑音響ふ人にものなし

Sweet-flags at Horikiro.

堀切之菖蒲

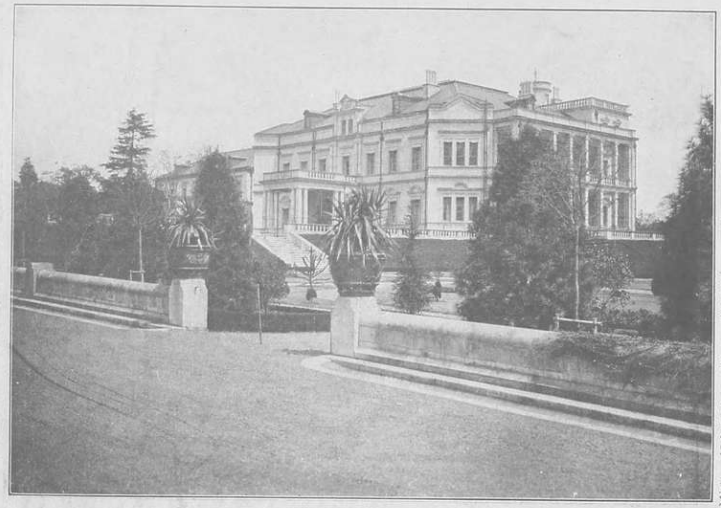
是は府下南葛飾郡堀切村に在り東武線堀切驛より三丁許りにして菖蒲園に達す、右方は小高園にして左方は武藏屋なり、方十數間の園内悉く菖蒲を植ゆ、花期に至れば紫白姹紫嫣紅四邊の池塘に艷容を浴す、美觀掬すべきなり、側らに小丘あり茲にさゝやかなる休憩所を設け、客の需めに應じて酒飯を供す、墨梅淡白遠觀も亦こゝすに足る

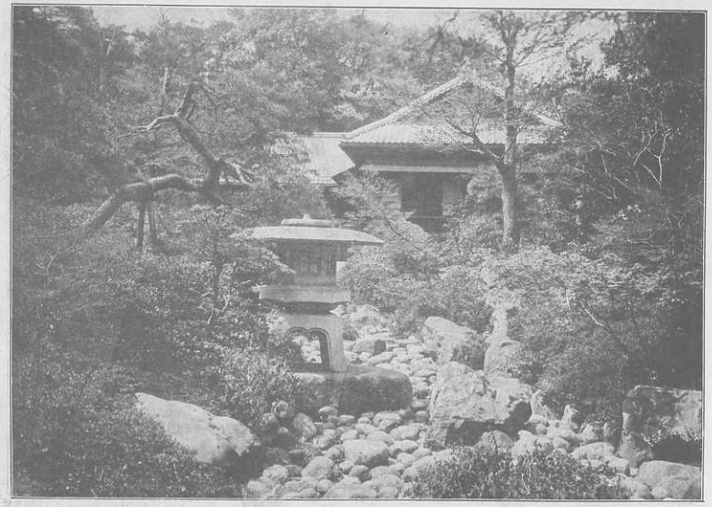
是は明治四十二年五月を以て開設せし、両國回向院内勧進相撲の常設館にして東西の力士、龍裔虎闘の勝敗を爭ふ光景也、昔寛文年間木村庄之助なるもの肥後熊本に至り、後鳥羽院より、本朝相撲御行司の勅命を蒙りたる、吉田追風の門に入り、相撲行司目附の役を授かり、爾後禁苑に於て御節會角力ある毎に、庄之助に東三十三ヶ國の力士を率ゐ、追風は西三十三ヶ國の力士を率ゐ、共に京師に入り天覧相撲を催したり其後、真享元年始めて勧進角力御免を蒙り、深川八幡境内にて興行せり、夫れより永御免と成り芝神明境内其他にて興行せし事ありしが寛政三年（今より百〇八年前）四月、回向院を以て勧進大相撲の定場所とし、興行毎に、土俵を築き桟敷を設け、青天十日の取組を了ると共に之を取壊つを例とせり、檪跡一聳滿都の人氣を攪き、一日の觀客萬を以て算ふ、斯界の盛況知るべきなり



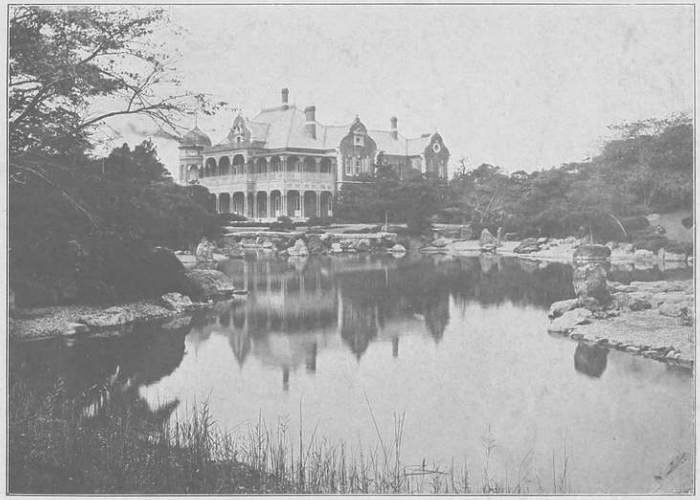
Wrestling at Kokugikan (wrestling-hall).　　國技館之角力

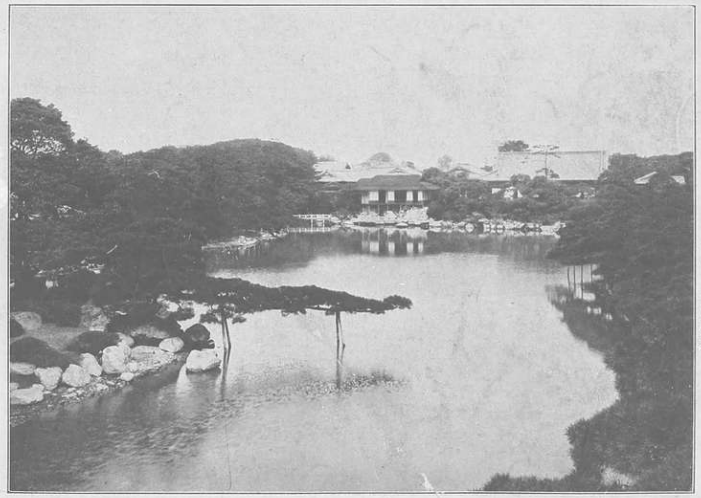
是は芝高輪南町に在る富豪岩崎家の邸宅なり、建築の美にして大なるは言に及ばず、其地位高燥に據れるを以て、品海の水、房總の山岳目睫の間に在り





Mr. Iwasaki's Mansion at Takanawa.　　高輪岩崎邸





是は深川區伊勢崎町に在る岩崎邸の庭園也花卉泉石の拙排總て天造の妙技を流露し一も人造の俗風を存せず、近海の風致、遠山の光景、倶に秀麗にして活畫の如し

Mr. Iwasaki's Mansion at Fukagawa.

深川岩崎邸

是は本邦忠臣義士の鑑と謳はれ、美名を國の内外に發揚せし赤穂四十七士の墳墓也即ち中央寺宇の中に在るものは大石良雄の碑石にして他は皆其周圍に羅列す、元祿十六年義士逝てより既に二百有餘年、世態人情幾度か變遷すと雖も、其忠勇義烈を追慕する士民の思想は萬古變るなし、平日は言ふに及ぼず、雨の朝風の夕べ、香を焚き花を供へて靈魂を慰するもの續々絶なく、一月に酌み花に酔ひても眞心は雪の朝にあらはれにけりこは大石良雄を崇したる茶氏の國風なり

Tombs of the Forty-seven Ronin at Sengakuji.

泉岳寺内四十七士の墓

College of Agriculture.　　農科大學

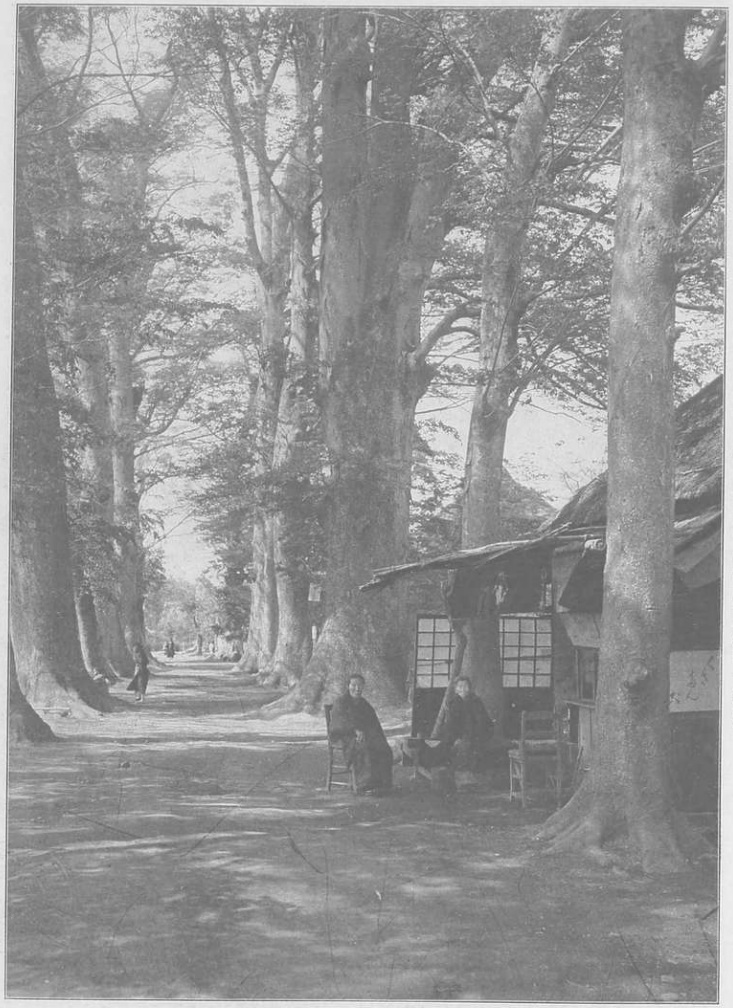
是は荏原郡上目黒村駒場野に在る農科大學也、明治廿三年六月、東京農林學校を帝國大學の分科大學となしたるものにて、農學、農藝化學、林學、獸醫學等の科學を授く、其修業年限は三ヶ年にして構内には農場を設け之を實習地、試驗地、作物、園藝見本園及經營農場見本地等に分つ、此他尚簡易速成の學科を設け實習研究の便に供するなど規模頗る壮大なり

Botanical Garden.　　植物園

是は小石川區白山御殿町に在る運化大學附屬の植物園也面積四万八千八百餘坪、内外の植物三千餘種を有て、庭園の築造泉石の按排巧みに相俟て優美を極む

Mr. Soichiro Asano's Mansion, Interior and Exterior.　　淺野邸

是は近頃芝田町に新築せし都下の鉄道淺野總一郎氏の邸宅なり、構造の精巧裝飾の優美、市内稀に見る處のもの、總て奈良朝時代の建築法に擬したるものなりと云ふ、書院客室又善美を盡し鈴懸鐵細瀟然として目を射るの觀あり、時に屋上の金鱗光りを品海の波に放ち、屋總の峰巒を雲間の間に望むの風流、恰も山水の名畫を展べたるが如し



Cluster of trees at Zoshigaya.

雜司ヶ谷鬼子母神境内並木

是は府下北豊島郡高田村大字雜司谷、法明寺境内鬼子母神附近の風光なり、舊記に永祿四年村民字清土（護國寺と當寺との中間）の清泉中より一躯の佛像を掘出したる法明寺の東陽坊へ納めたり云々とあり、今の鬼子母神即ち是れなり、名物の草團子に舌鼓を打ち、鬱々たる老木の間に徘徊せんか、塵埃到らず仙境如のし

Red Cross Hospital of Japan.

日本赤十字社病院

是は府下豊多摩郡渋谷村御料地内に在る日本赤十字社病院と其病室内の一端なり、明治十年西南の役に際し故佐野常民、大給恒の二氏博愛社を起して敵我の傷病者を救ひ、十七年故橋本綱常氏同社總長小松宮彰仁親王の令旨を奉じセネバに開ける第三回赤十字社總會に列席し帰朝後病院設立の必要を唱へ、十九年政府の赤十字盟約に加入するや博愛社又中央赤十字社に加盟し赤十字社病院と改稱せり、廿年帝室より十萬金を現在の敷地を下賜せられたるに由り此の雄大なる病院の落成を見るに至りナ　平時は一般患者の診療に應じ戰時に陸海軍患者收容の用に供す、病室總數八十二、患者三百五十餘人を容るゝに足るを云ふ

是は大久保の躑躅滿開の光景也、種根古樣園々として數丁の間に列なり、紅黄紫白爛漫として滿園を照らす、恰も彩霞の棚引が如し

Azaleas at Okubo.

大久保のつゝじ

是は府下荏原郡下目黒に在り山手線目黒驛より約十五丁、天臺宗にして瀧泉寺と號し、大同年中熱覺大師の創建なりといふ、後水尾帝御宸筆の扁額を掲げたる樓門を潜れば左方に獨鈷の瀧あり、清水龍口より迸り、如何なる旱天も雖も涸渴することなし、境内には櫻樹あり後山には緑樹繁茂し幽邃に雅の靈場なり此地赤竹の子飯、栗飯を以て名あり

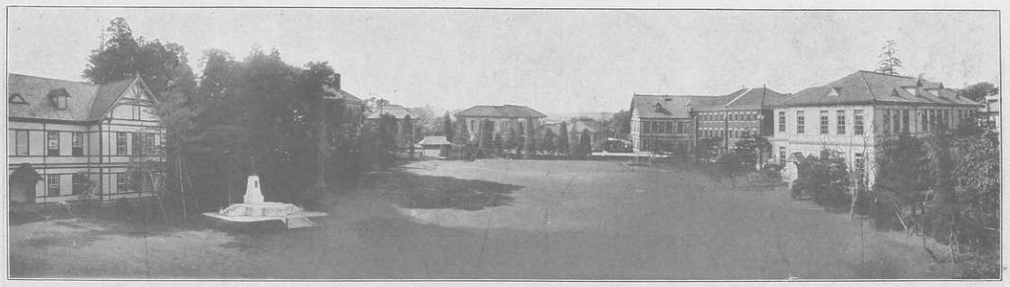
Shrine of Fudo at Meguro.

目黒不動

Temple of Hoamonji at Ikegami.

池上本門寺

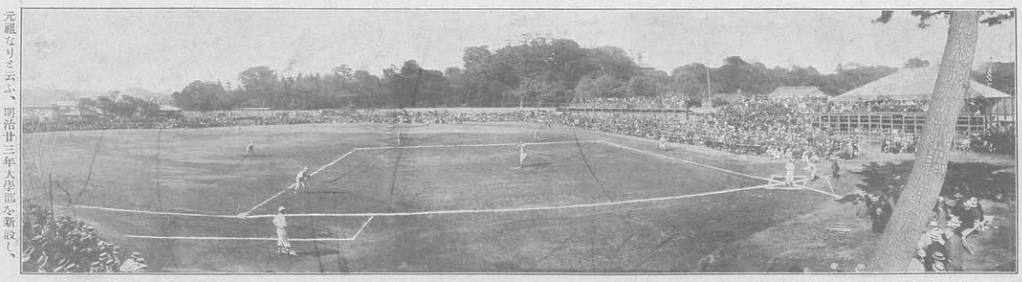
是は東海道線大森驛より、廿丁滿田驛より十丁、即ち千束郷池上村に在る日蓮宗の一本山、本門寺會式の壯觀也、當寺は文永十一年（今より七百餘年前）十一月、日蓮上人身延山より來りて之を開き、弘安五年十月十三日寂に寂す、所謂宗祖終焉の地なるを以て、堂塔伽藍の結構壯麗を極め、其彩勝天然の數堤河に似たりと云ふ、毎年十月十二、十三の兩日に執行する會式は天下稀有の壯觀にして、講中信徒の振り照らす萬燈の影に陸續として星の如く列なり、法鼓の音は梵唄の聲と和して天地に響き、六万七千餘坪の境内、人山を築き人波を打ち、混亂雜沓立錐の餘地なきに至る、以て其式の盛大なる事知るべき也



University of Waseda.

早稲田大學

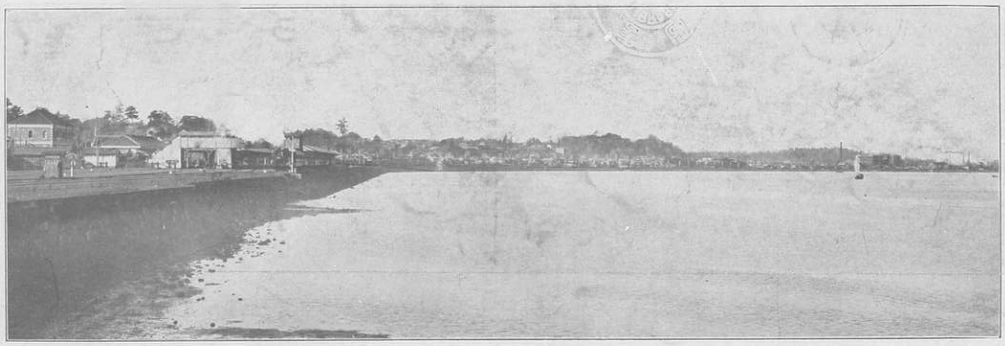
是は牛込區早稲田に在る早稲田大學の全景なり、大隈伯を總長と仰ぎ、高田早苗氏之に學長たり法、文、政治、理工、商の諸分科より成りての規模の廣大にして、學生數の多き、優に城西に覇を稱するに足る



Keio Boys at Base-ball.

慶應義塾の野球競技

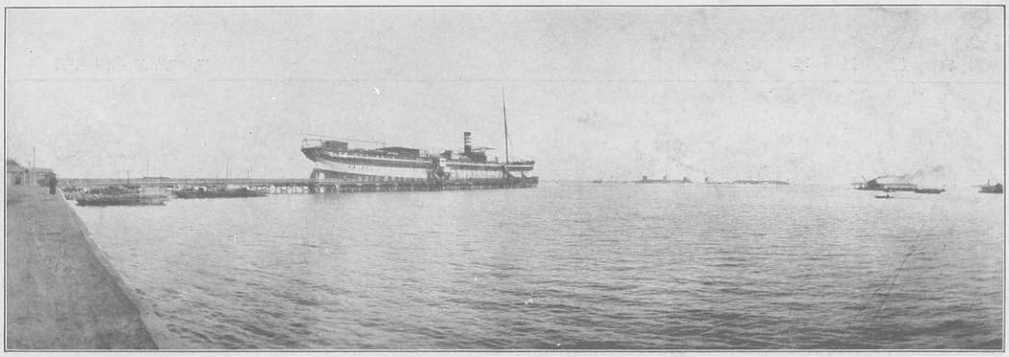
是は芝區三田二丁目慶應義塾學生野球技競技の狀態なり、近時盛ん外國野球團体と技を角し、進歩熟達大に手腕の敏捷を加ふ、本塾は故福澤諭吉翁の創立にして、東京に於ける洋學私塾の元祖なりと云ふ、明治廿三年大學部を新設し、遂に今日の盛況を見るに至りたり、現在の敷地は舊島原藩邸にして面積二万四千坪、生徒約四千名を有すと也



品川より芝浦を望む

View of Shibaura from Shinagawa Bay.

是は品川より芝浦の勝景を望みたる風光なり高輪海岸より新橋方面の大厦高樓を左方に望み、深川、洲崎の烟波を東北方に見渡し、房總の翠巒は縹渺として正面に横はり、東京灣は円大なる鏡の如く其間に埋没たり、舟艇曲弓の如き鉄路の上に、絶えず汽車電車の走るあり、其景致の優美実大なる寡に一塊の活動寫眞なり



ロセッタホテル

Rosetta Hotel.

是は芝浦の海濱に在るロセッタホテルの全景也、本館は日露交戦の際武器兵器運搬の用に充る爲め、外國より購入せしロセッタ號と稱せし船舶の化身なり、元來老船なりし爲め、陸後航海の用に適せざるより茲に擬ひて旅館兼料理店と爲し、一種風變りの設備を呼びものとし、世の閑来を博するの趣向なり

新橋藝者おどり

Geisha-dance.

是れ本邦舞曲の花と謳はれたる藝妓素踊の壓巻也、春爲雲し唄ひ、胡蝶花に舞ふの觀あり、此等の前には閻魔も笑ひ佛陀も笑ふべし況や凡夫に於てをや

是は四十二年七月、本郷座に於て興行せし高田一座の新派劇、名題（なだい）（演）中の一幕なり、其他名及役名左の如ければ右より櫻澤逸次郎の和田新一、河合武雄の東吾妹妙子、高田實の坂巻正吾、木下吉之助の米津妹文子五味國太郎の米津雄三郎にて評判の演劇なりき

新劇

Theatrical performance (of the new school of actors).

明治四十四年四月二十四日印刷
明治四十四年四月二十七日發行

複製不許

印刷兼發行者　小川一眞
東京市京橋區日吉町十三番地

印刷所　小川寫眞製版所
東京市京橋區日吉町十三番地

74 3 IK76

終